

# 東京芸術大学芸術祭

## tokyo university of arts | art fair 1961

芸術祭テーマ 芸術家は現代の人間関係をいかにとらえるか

4F学内

芸祭

1961

奏楽堂に於いてナンバーをふってある演奏会は整理券を発行いたします



2  
thu



10 奏楽堂	1.30	3	4	5	7
室内楽演奏会 A	1 ブラスバンド特別演奏会	2 クラシックコンサート	合唱3年声乐科	3 演劇「オルフェ」演劇部公演	
野外ステージ	12	4	5	7	
	ポピュラーコンサート	フォークダンス	ダンスパーティ		
第7講義室	1.30	3			
	講演会 大島渚 その他				
58室		4		7	
		音楽のあり方 北沢方邦			

3  
fri

10 奏楽堂	12	2.30	4	5	7
室内楽演奏会   B	邦楽演奏会	4 室内オーケストラ演奏会	5 JAZZシンフォニー	6 学生交響楽団演奏会	
野外ステージ	12	1	4	5	7
	オーケストラ演奏会	ポピュラーコンサート	フォークダンス	ダンスパーティ	
第7講義室	1.30	3	5		
	講演会 岡本太郎	デザインに関する講演会 芸術学科建築科工芸科主催			
58室		3		6	
		音楽と社会体制 林光			

4  
sat

10 奏楽堂	1			5	7
室内楽演奏会 C	公開討論会 1部 2部 3部 運営委員会主催			7 ポップスコンサート	
野外ステージ	12	1.30	2.30	4	5
	空手演武	弦楽合奏	ポピュラーコンサート	フォークダンス	ダンスパーティ
第7講義室	1.30	2.30			
	映画 実験α 芸術学科主催				
58室					

5  
sun

10 奏楽堂	1.30	2.30		5.30	7
作品演奏発表会	8 弦楽合奏	室内楽演奏会   D		9 学生交響楽団演奏会	
野外ステージ	12	12.30	2	3	4
	原始音楽	JAZZシンフォニー	合唱3年声乐科	ポピュラーコンサート	ダンスパーティ
第7講義室	11	1.30	3	5	
	映画松川事件 自治会主催	講演会 花田清輝	映画松川事件 自治会主催		
58室		1.30		5	
		音楽活動と社会的認識 実践活動との関係 井上頼尊			

東芝ファミリーステレオシリーズ310



**東芝** *Toshiba*  
ステレオ

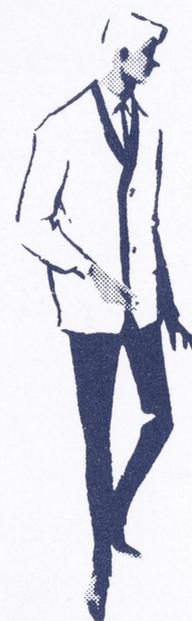
2点1組  
現金定価 24000円  
定価 25000円

音が音を呼ぶ共鳴ステレオ



彼女も知っている

まあステキ！思わずため息が出る…  
マツザカヤのユースセンターは  
まったくゴキゲンです(本館2階)



上野 松坂屋

# 現代の芸術家と人間関係

音楽学部

佐野光司 楽理3

人間関係をいかにとらえるかのテーマとは無関係に奏楽堂ではクラシックからJAZZまで、例年の伝統を正確に受けついで芸術祭が催される。しかし問題は個々の内部深くで解決されるものである。編集部では募集したアンケートからひとつの方向を打ち出す為に、四人の原稿をもとにしてそこから何らかの問題を提起する意味でまとめを依頼した。

## 音楽と現代

《日本人は西洋の学問を機械の様に考えている。長年多くの仕事を行い、それから簡単に他所に移し、そこで又仕事をさせる事ができる機械と云った風にこれは間違いです。西洋の学問の世界は機械ではなく有機体で、他の全ての有機体と同様、これを成長させるには一定の風土と雰囲気が必要です。西洋の国々は諸君に教師を送りました。彼等は科学の花園の庭師であるべきだし、又そう望んだのですが、人々は彼等から新たな果実を生む精神を学ぶ代りに、彼等を学問の果実の商人として扱ったのであります—E.ヴェルツ。この学問と云う言葉を音楽に代えさえすれば、日本における歴史的に規定された誤った発展にみられる矛盾は全て明らかになる。それは今日でもなお遺憾な結果を生んでいる》(シュナイダ 現代音楽と日本の作曲家)

ここに要約された西洋音楽導入の際の日本の姿勢は、その後現在に至るまでの日本音楽と音楽家、又音楽に対する認識にまで影響を及ぼしている様だ。松谷氏の「芸術家の主体性は今や問題にならない」と云う文もその一例ではないだろうか。なる程、芸術作品の純粋美的価値判断はその生れた時代背景やその作者についての知識が皆無であっても可能であろう。だがその精神的内容は特に音楽の場合には、作者又はその土壌となる社会への知識なしには不可能に近い。そして作品の背後にあるものへの洞察は更に、作品への正当な評価へ近づくその内包するものをより明らかにさせる等である。日本に西欧音楽が入って来た1880年以降は、すでに調性が崩壊の一途をたどっていた。調性の破壊は音楽の素材的可能性に大きな展望をもたらしたが、実際には音楽家は従来の各時代にあった暗黙の規制〈旋法・調性等〉を除かれた事に依って、内的空間状態に追い込まれた。権威の破壊の後に来る無政府状態に似て、何を用いてもよかったがそれは各自の選択に委ねられ、各個人が独自の様式を創造する事を前の時代より更に強く要求された。そして創作の内的欲求は、自己の内包を具体化する形式の選択と確立へ向けられ、極度な主観主義と技術偏重に移向した。その結果音楽は聴衆から次第に遊離し、増々音楽家を孤立させ、しかも日本に於いては、西洋音楽の伝統的精神基盤へ目を向けなかった事が、この傾向を殊に著しくし、音楽家の非社会性の因を形成したのではなかったか。又、音楽外的と云う言葉に総称される一切を捨象して、技術偏重に向って行った現代音楽の様相は、圧倒的な社会の二階級の矛盾とそこから醸成される危機感、不安感を前にして、自己の内部に逃避して行った芸術家

達にとっては、必然的な動向であったかもしれない。

方調性の耳で育った聴衆は、依然過去の音楽表象を以って現代音楽を理解しようとする態度を崩そうとはしない。ベートーヴェンを或いはショパンを聴く、その同じ評価基準で現代音楽に接するならば、現代音楽の理解に倒達する事は極めて困難と云わねばならない。当然そこに従来の音楽教育のあり方が問題とされてよい。しかし現状では、その問題はほとんど顧られていない様だ。

聴衆と音楽との断絶は、平福氏の中では虚無感となって表われ、神への帰結によってその断絶から来る葛藤を避けている。しかし「苦しい事も避けないで立ち向う」と云う事を自己に課する以上、主体的に聴衆と音楽との断絶の矛盾に立ち向うべきではないだろうか。演奏家の場合、この断絶に何時までも背を向け、西欧における過去の輝やかな聴衆と音楽との交流の歴史にのみ沈潜する限り、現代社会との関連を把握するのは難かしい。しかしこの社会認識は、直接に音楽創作のテーマとはなり得ないだろう。その関りは広瀬氏も指摘している通りだと思う。そして現代社会の典型と、現代音楽の典型を関連づけた巨視的見地から、作品に見られる社会反映を指摘するのは可能であるが、典型と云う抽象概念でなく、個々の生命を包含する作品の中で、その具体的足跡をたどるのは不可能に近い。勿論僕は個々の作品の中にそれを感知出来ないと云っているのではない。むしろこの感性認識の時点で、音楽と聴衆との交流が行なわれているのである。

本田氏は広瀬氏の意見を「芸術の論理」と「社会的革命の論理」という2次元論を立てて説明しているが更に後者の論理に背を向け、前者の論理の殻にとじこもる事は現代では許されないとして、社会意識を芸術創作の契機にする事が現代に於ける芸術活動の真の意味である。と結論する。これに対しては様々な反論があろう。現代日本の音楽家には、本田氏の主張は特に要求されていると思う。唯、「真の意味である」と云う事を教条化するのは危険である。芸術家は自己の内的必然性に従って創作し、全てをその内的傾向に委ねる以外にあるまい。勿論社会への積極的志向を自己の精神的基盤とし、体制変革への参加のエネルギーを自己の内面で燃焼させつつ、作品のヴァイタリティーに昇華させる事は現在特に必要とされる。それと芸術家の内的必然性が合致する時、聴衆と音楽との間にある溝を埋めるひとつの鍵になるのではないかと思う。

## ● 日本現代音楽の粹



このレコードはすべて永久にホコリのつかないエバーグリーン・レコードです

日本現代作曲家シリーズ

■「エローラ交響曲」 芥川也寸志曲

■「二楽章の交響曲」 団 伊玖磨曲

ウィリアム・ストリックランド指揮  
イムペリアル・フィルハーモニー交響楽団  
■JSC-1004 30cmステレオLP ¥ 2,000

■「歌劇「黒船」」 山田耕筰曲

伊藤京子/三浦尚子/票本尊子/立川澄人  
柴田陸陸/中村 建/伊藤直行/票本 正  
二期会合唱団 森 正指揮  
東京交響楽団 総指揮 山田耕筰  
■JSC-1002~3 30cmステレオLP ¥ 2,000

■「涅槃」交響曲 黛 敏郎曲

W・シュヒター指揮 NHK交響楽団  
■JSC-1001 30cmステレオLP ¥ 2,000

日本現代作曲家シリーズ  
1960年度NHK制作イタリア賞受賞作品

■「音楽詩劇「オンディーヌ」」

三善 晃曲 (語り) 山本安英  
幸田弘子/久富惟晴/岸田今日子/水島弘  
(電子音楽) NHK電子音楽スタジオ  
森正指揮 ラジオ管弦楽団  
■JSC-1005 30cmステレオLP ¥ 2,000

Toshiba  
RECORDS

東芝  
レコード

東京芝浦電気株式会社  
東芝音楽工業株式会社

# 現代の芸術家と人間関係

## 美術学部 フクダガ | 油 4

創作の過程で何が一番の問題になり得るかはもちろん、個々の内部での解決であり、各々そのとらえ方は異なるに違いない。しかし芸術作品の根底には、人間性探求への飽く事のない執着がある。そこで募集したアンケートから四人の美術学部学生の実稿を掲載し、ここではこれら諸君の現在の意識をまとめ、何等かの方向を得る意味で、集約を依頼した。

イタリアン・レアリズムでは、不条理は外部状況にあり人間の内部は疑われていないと云う意味のことを針生一郎がどこかで述べていた。今年度芸術祭のテーマ〈人間関係をいかにとらえるか〉の設定のしかたにも同じような臭いがしないでもない。状況からの被害者としてのみ現代の人間を見る傾向が強いが、状況を作り出しているのも他ならぬ当の人間であり、状況に圧迫されその変革に努めながらも一方では日々現存状況を再生産しているという矛盾を我々自身が見落してないだろうか、自分と状況との間には当然矛盾があるが、自分自身の中にもそれがあること即ち状況を変革する課題と自己を変革する課題とは結びつかねばならないのである。何かふりかざしたような言種になったが、それというのも我々の中には現実に対する無感覚と被害者の泣き顔が余りにはびこり過ぎていると思われるからだ。被害者意識はまる出しの泣き言を並べたり、時たまデモなどに行くことで自己満足しているチャッカリした人種、更にはそのようなこと全てがアホらしいとばかりニヒリスト顔しながら自分がそう考えるというその行為だけは疑ってみようともせぬナルシスト等々これらは皆現実への無感覚者同様不毛な存在ではないか。そう思えて仕方がないのである。「人間関係をいかにとらえるか」も結構だが、自己への手ばなしの信頼の下ではせいぜい泣き言や悪態を大量結集出来るだけに終えるのがオチで、芸術運動の前進というお題目も泣き言に変えるのではないかと思われる。

鈴木君の文章などその見本のようなものだ。そこには、現代のアホらしさをわめきちらしてはいるが、自分も現代を構成するいわば加担者としての自己内部のアホらしさとどう対結するかという苦悩などみじんも見られない。「ここらでそろそろ御破算に人間共も犬ころもこの辺で安堵をつきたいし人間くたばりへったくれにならぬ内、ルネッサンスの栄光をもう一度試してみたいもの」などと結ぶに至ってはノンキさというより無責任さを感じる。ルネッサンスの栄光をもう一度等と云うが、興亡の激しい厳しい時代でもあったことをお忘れのないようお願いしたい。

瀬谷君の〈不老長寿説〉は所々興味ある設定があり読ませるが、正直な話、私の大脳皮質の貧弱さのせいか理解に苦しむところがある。生を人間、死を自然、不老長寿を人間による自然の支配と置きかえた方が良く。人間は絶えず自然と闘い克服し即ち自然を人間化し同時に自分自身を変革してゆくのは事実だが、それが分業を通じて行なわれ、人間は自己を商品化し即ち他人の欲望の対象に転落することによって生きてゆかねばならぬ階級社会では階級対立の止揚を自然の人間化・人間の変革過程としてと

らえる必要がある。階級関係も人間関係の一種だし、不老長寿に達しなければ解決しないのではなし、一つ一つ解決して行くなかで人間関係の質が変わって行くのである不老長寿などという自然を支配し切ったようなユートピアをあらかじめ設定するあたり宗教臭い。上から見降す哲学者になるのもよいがなにより現実の状況と自己の内部にある問題をイメージとして定着化するところから始まる地上から天上への発想方向を見失うと、折角の哲学的思考も創作と結びつかなくなる。

山田君の文章は芸術本質論ともいべきものだろうが、抽象論としては同調出来る所も多いが、現実の問題に関しては説得力が弱いのは何故か、上から下への思考方法が安易に貫いていて、複雑怪奇な現実を単純に裁断したせいかも知れない。そこでは現実の住宅が単純な二段論法で政治権力の問題に移行している。従来の美意識をのりこえた新しい建築の問題とそれを実現する時ぶつかる所有者からの制約の問題と日本の庶民の貪しさ、住宅政策の貪困から住宅不足問題など個々の建築家のぶつかる種々の問題が簡単に野合されてはいないか。最後の問題など明らかに政治の問題だが新しい建築株式創造の問題はそう簡単に政治権力に結びつけたところで解決出来るとは思われない。日本人の生活様式、感情や美意識を問題にしなければならないだろう。「芸術などといった、もったいぶった言葉」は全く同感である。更につけ足させてもらえば人間という現実を被い隠す甘ったれた概念も、もう一度実体を調べてみる必要がある。

なかざわ君の文章は女性の地位を論じて我々が常日頃都合よく気にもとめずに済ましそうな問題を提起している。女性の地位をどう見るかなどという傍観者の姿勢ではなく便宜を守ろうとする男と、自分の姿を享受する女と相方合作の上に関係が成り立っていること即ち関係を支える当事者の意識構造の変革を要求しているところは重要である。更に基盤になる経済的独立も指摘してあり本筋に於いて全く異論ない。当然現状社会制度、家族制度問題が出て来るがそのことと意識構造を更に具体的に分析することに欠けている。

最後に人間関係を芸術家はどうかとらえるかというテーマに問題がある。関係をどうかとらえようと創作のテーマとはならないからである。関係を支える人間の内部との関連でとらえなければならないし、何よりも状況を支えながらもその被害者であり時にはそれを変革しようとする人間の内部に動めく複雑な意識、感情、欲求をこそ芸術家は問題にするからである。

◆CASH 勿論 OK/10回分割払いも御利用下さい

# ヨウライ楽器店

管弦共に一流品 予約輸入引受けます

神田淡路町地下鉄前 TEL(251) 1866

# 現代の芸術家と人間関係

音楽学部

佐野光司 楽理3

人間関係をいかにとらえるかのテーマとは無関係に奏楽堂ではクラシックからJAZZまで、例年の伝統を正確に受けついで芸術祭が催される。しかし問題は個々の内部深くで解決されるものである。編集部では募集したアンケートからひとつの方向を打ち出す為に、四人の原稿をもとにしてそこから何らかの問題を提起する意味でまとめを依頼した。

## 音楽と現代

《日本人は西洋の学問を機械の様に考えている。長年多くの仕事を行い、それから簡単に他所に移し、そこで又仕事をさせる事ができる機械と云った風に—これは間違いです。西洋の学問の世界は機械ではなく有機体で、他の全ての有機体と同様、これを成長させるには一定の風土と雰囲気が必要です。……西洋の国々は諸君に教師を送りました。彼等は科学の花園の庭師であるべきだし、又そう望んだのですが、人々は彼等から新たな果実を生む精神を学ぶ代りに、彼等を学問の果実の商人として扱ったのであります—E ヴェルツ。この学問と云う言葉を音楽に代えさえすれば、日本における歴史的に規定された誤った発展にみられる矛盾は全て明らかになる。それは今日でもなお遺憾な結果を生んでいる》(シュナイダー 現代音楽と日本の作曲家)

ここに要約された西洋音楽導入の際の日本の姿勢は、その後現在に至るまでの日本音楽と音楽家、又音楽に対する認識にまで影響を及ぼしている様だ。松谷氏の「芸術家の主体性は今や問題にならない」と云う文もその一例ではないだろうか。なる程、芸術作品の純粹美的価値判断はその生れた時代背景やその作者についての知識が皆無であっても可能であろう。だがその精神的内容は特に音楽の場合には、作者又はその土壌となる社会への知識なしには不可能に近い。そして作品の背後にあるものへの洞察は更に、作品への正当な評価へ近ずけその内包するものをより明らかにさせる等である。日本に西欧音楽が入って来た1880年以降は、すでに調性が崩壊の一途をたどっていた。調性の破壊は音楽の素材的可能性に大きな展望をもたらしたが、実際には音楽家は従来の各時代にあった暗黙の規制〈旋法・調性等〉を除かれた事に依って、内的空間状態に追い込まれた。権威の破壊の後に来る無政府状態に似て、何を用いてもよかったがそれは各自の選択に委ねられ、各個人が独自の様式を創造する事を前の時代より更に強く要求された。そして創作の内的欲求は、自己の内包を具体化する形式の選択と確立へ向けられ、極度な主観主義と技術偏重に移向した。その結果音楽は聴衆から次第に遊離し、増々音楽家を孤立させ、しかも日本に於いては、西洋音楽の伝統的精神基盤へ目を向けなかった事が、この傾向を殊に著しくし、音楽家の非社会性の因を形成したのではなかったか。又、音楽外的と云う言葉に総称される一切を捨象して、技術偏重に向って行った現代音楽の様相は、圧倒的な社会の二階級の矛盾とそこから醸成される危機感、不安感を前にして、自己の内部に逃避して行った芸術家

達にとっては、必然的な動向であったかもしれない。

一方調性の耳で育った聴衆は、依然過去の音楽表象を以って現代音楽を理解しようとする態度を崩そうとはしない。ベートーヴェンを或いはショパンを聴く、その同じ評価基準で現代音楽に接するならば、現代音楽の理解に到達する事は極めて困難と云わねばならない。当然そこに従来の音楽教育のあり方が問題とされてよい。しかし現状では、その問題はほとんど顧られていない様だ。

聴衆と音楽との断絶は、平福氏の中では虚無感となって表われ、神への帰結によってその断絶から来る葛藤を避けている。しかし「苦しい事も避けないで立ち向う」と云う事を自己に課する以上、主体的に聴衆と音楽との断絶の矛盾に立ち向うべきではないだろうか。演奏家の場合、この断絶に何時までも背を向け、西欧における過去の輝やかな聴衆と音楽との交流の歴史にのみ沈潜する限り、現代社会との関連を把握するのは難しい。しかしこの社会認識は、直接に音楽創作のテーマとはなり得ないだろう。その関りは広瀬氏も指摘している通りだと思う。そして現代社会の典型と、現代音楽の典型を関連づけた巨視的見地から、作品に見られる社会反映を指摘するのは可能であるが、典型と云う抽象概念でなく、個々の生命を包含する作品の中で、その具体的足跡をたどるのは不可能に近い。勿論僕は個々の作品の中にそれを感知出来ないと云っているのではない。むしろこの感性認識の時点で、音楽と聴衆との交流が行なわれているのである。

本田氏は広瀬氏の意見を「芸術の論理」と「社会的革命の論理」という2次元論を立てて説明しているが更に後者の論理に背を向け、前者の論理の殻にとじこもる事は現代では許されないと、社会意識を芸術創作の契機にする事が現代に於ける芸術活動の真の意味である。と結論する。これに対しては様々な反論があろう。現代日本の音楽家には、本田氏の主張は特に要求されていると思う。唯、「真の意味である」と云う事を教条化するのは危険である。芸術家は自己の内的必然性に従って創作し、全てをその内的傾向に委ねる以外にあるまい。勿論社会への積極的志向を自己の精神的基盤とし、体制変革への参加のエネルギーを自己の内面で燃焼させつつ、作品のヴァイタリティーに昇華させる事は現在特に必要とされる。それと芸術家の内的必然性が合致する時、聴衆と音楽との間にある溝を埋めるひとつの鍵になるのではないかと思う。

## ● 日本現代音楽の粹



Ever Clean  
RECORDS

このレコードはすべて永久にホコリのつかないエバークリー・レコードです

日本現代作曲家シリーズ

■エローラ交響曲 芥川也寸志曲

■二楽章の交響曲 団 伊玖磨曲

ウィリアム・ストリックランド指揮  
イムペリアル・フィルハーモニー交響楽団  
■JSC-1004 30cmステレオLP ¥ 2,000

■歌劇「黒船」 山田耕筰曲

伊藤京子/三浦尚子/栗本尊子/立川澄人  
柴田陸陸/中村 建/伊藤直行/栗本 正  
二期会合唱団 森 正指揮  
東京交響楽団 総指揮 山田耕筰  
■JSC-1002~3 30cmステレオLP ¥ 2,000

■「涅槃」交響曲 黛 敏郎曲

W・シュヒター指揮 NHK交響楽団  
■JSC-1001 30cmステレオLP ¥ 2,000

日本現代作曲家シリーズ  
1960年度NHK制作イタリア賞受賞作品  
■音楽詩劇「オンディーヌ」

三善 晃曲 (語り) 山本安英  
幸田弘子/久富惟晴/岸田今日子/水島弘  
(電子音楽) NHK電子音楽スタジオ  
森正指揮 ラジオ管弦楽団  
■JSC-1005 30cmステレオLP ¥ 2,000

Toshiba  
RECORDS

東芝  
レコード

東京芝浦電気株式会社  
東芝音楽工業株式会社

# 現代の芸術家と人間関係

## 音楽学部

■ 61 芸術祭テーマ / 芸術家は現代の人間関係をいかにとらえるか

音楽家にとって、自己の社会的な責任を認識するという事は具体的にはどういう事だろうか。音楽学生は社会に於ける個々の役割りや、芸術の本質である真の人間関係への探求を実際にどのように演奏なり創作なりに反映させているのであろうか。これらの問題について音楽を学ぶ諸君に聞いてみたい。

### 平福美穂 | 器楽 3

#### ● 随想

演奏する時も聴く時も社会的な意識から離れていると思います。すると音楽を勉強する者にとって、人間関係を社会的に意識して生活する事は時間とエネルギーの浪費なのではないでしょうか。しかし音楽に対する感性も、もっと普通なものが含まれていると思います。故に真にそれを持つ人なら社会情勢に対し正しい判断を持ち得ると思います。即ち彼は「現代は歴史的諸条件や生来的能力に基づく差によつて支配されているが、社会の構成員たる個々がその能力を発揮し、責任を遂行出来る理想社会に近づかねばならない。それにはこれらの差を克服するのに協力せねばならない」。等々を自覚せざるを得ないと思います。この理由によって社会に全然無関心で居る真の音楽家など存在しないでしょう。しかしこの程度にしか社会と関係づけることが出来ないのは、私に音楽家の自負心なるものがないせいもあると思います。が、それよりも次の考えによって私にはそれが出来ないのです。即ち人間は成程社会の中で生活していますが、一方的生活に支えられています。そしてそこから音楽が生まれ、又社会に対する態度も生れると思います。故に音楽は社会に従属する性質のものではないので、音楽と社会を必要以上に結びつけるべく精力を費やすことは無意味なことに思われるのです。それに又、もし仮りにある一つの音楽作品に於いて社会との関係を説明出来たとしてもそれは単に一例にすぎず、個々の音楽の場合で事情が全く異なるのですから、そこから何の発展も得られないと思うのです。結局私の云いたい事は、社会を良くすべく努力するのは人間として課せられたことであり、そうする事はおのずから音楽に作用するのであって必要以上に両者を関係づける事を要求する事はない、と云うことです。日頃以上の様な事を考えていると、分らない許りで馬鹿々々しいと云う虚無感に捉われて困りますが結局「生きることは価値があり真理（神）は確かにあって何時か自分もそれと結びつく」と云う考えに落ち着きました。現代の信頼出来る若者達が「真理などあるものか」と云ってなおかつ逞しく生きているのには驚嘆の他なく彼等には頑張るって欲しいと祈ることしか出来ません。そしてこれから自分に課せられたことと云ったら「苦しいことにも、それを避けないで立ち向い、真面目に生きること」ただそれだけです。

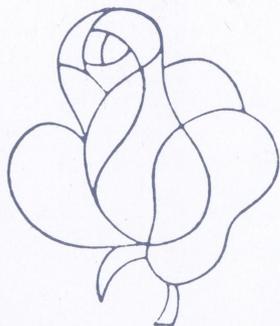
### 広瀬量平 | 作曲科卒業

#### ● 音楽家の場合

勿論社会の人間関係を意識的にとらえなくともピアノは奏けるし作曲も出来る。そして才能ある芸術家なら結局何らかの形で無意識的にでも彼の生きている現実をとらえているのである。芸術至上主義と云うのも結局は否定という仕方であつて彼の住む社会と関わっているのだ。それでは何故芸術家が積極的に社会の人間関係をとりえ、認識しなければならないのか。それについて書くべきであると思うが、与えられたテーマは、何故〈Why〉ではなく如何に〈How〉なのである。ここでとらえると云う言葉は単に認識すると云う意味にも又表現するという意味にも考えられる。彼が芸術家である以上認識の結果生じた自分の主張がその仕事に反映するのは当然かもしれない。しかしその辺の事情は簡単ではない。特に音楽家の場合それがどういう形で仕事に投影されるかは全く微妙である。例えばピアノ演奏に於てそれはどんなこととして表われ得るかも現われ得るとしてもそれは表現意欲の強さというような形でしか感じようがないのではないか。

しかしもし一人の音楽家に於いてある認識がある主張を生みそれが彼の内的な生に浸透することによって彼の芸術の営みに関わって来ることがあり得ないと云えようか。その事が、彼の以前の満足を不満に変えるかもしれないし、次第にイメージに変化をもたらし彼の美感をも少しずつ変えていくということもあり得るのではないか。それが表現上の困難さを克服する忍耐力のより所になったり、時には創作衝動の震源となつたりすることもあり得るであろう。このような行為は外見上特別に社会的な行為でもなく、ひたすら音楽的な行為であるが、こうした努力の結果がどういう風に受け取られるかについて芸術家は相手に委ねる外はない。しかしその表現が強い共感によって理解され支持されることは十分あり得るのだ。その時そこに音楽による心の交流がなされたのであり、もしそれが普遍的性を獲得した時、そこに一つの価値が生れたのである。私は、あまり稀有の場合について書きすぎたかもしれないが、音楽家が表現の場で現実をとらえようとしても結局こう云つたことでしかないかもしれない。しかし彼は当然自分の仕事が最も有効な意義をもち得る場を求めようしそれが駄目なら、自ら創り出さなければならないことになるかもしれない。

楽しいお買物は・・・



落ち着いた雰囲気と行届いたサービス。そして洗練された商品を豊富に取揃えてございますから買物がたのしんでいただけます。

お買物の楽しさを差上げる商品券 東京・大阪・京都・横浜共通



東京 日本橋

高島屋

電話 (211) 4111



真珠色にみがく 資生堂パール歯磨

各50円・100円・150円・潤性100円

# 現代の芸術家と人間関係

## 音楽学部

■ 61 芸術祭テーマ／芸術家は現代の人間関係をいかにとらえるか

毛皮のコートを着た人々のみ対称に音楽は演奏されるべきではない。しかし多数の音楽家は前衛、もしくは現代の意識に突き当たっていないといわれる。現代の要求するものと、我々が生産するものとの間のずれを音楽家はどう解決するのであろうか。聴衆と演奏家—これも人間関係なのである。

### 本田脩 楽理 3

#### ● 社会意識と芸術の論理

私の発言は当然のことだが、この資本主義社会なる歴史的・社会的状況の中に諸々の矛盾を感じ、未来へのパースペクティブの中においてそれは乗り越え、変革さるべきであるという前提に立っている。ところでこの社会的現実について「人間関係をとらえる」ことは本質的には、社会意識をもつことであり、更に階級意識、革命意識をもち同時に実践に通ずることであると思う。ではこの社会意識をもつことと、芸術の創作・創作品とはいかなる関りをもつか。結論的に云えば、両者は次元を異にして相互に関わりあっている。次元を異にしていう意味は芸術には芸術独自の論理があるということである。つまり、芸術の論理とは人間の精神に直截的に関わる内面性の論理である。他方、社会的革命の論理とは政治的・経済的条件を変革する論理であり、人類の歴史を主体的に乗り越える超越の論理であり、芸術家に於ては彼の創作態度に外在的に関り、人間存在の条件を拡大し、人間の意識を変質させ得る論理なのである。そして両者が相互に関りあっているの意は、この社会意識が自らの創作品に内的には芸術的モラル、外的には社会的モラルとして、又創作の基礎、創作の契機となって関り、他方この創作品は自らの社会意識、実践に内面的価値を与えるものとして関りあっているということである。例えば1789年のフランス革命へのベートーヴェンの態度と彼の音楽との関係は不可分である。ベートーヴェンに於ては社会意識、革命の意識と善のモラルが彼の創作に於ける発想法—理念になっていたことは、ロマン・ロランの言葉を待つまでもなく、彼の書簡が端的に物語ってくれる。彼をして「音楽の創造者と、人間を幸福にする者には今の君主的世界はもう適しない」と云わせしめることによつて、彼は美の領域での革命—人間の美意識の変革・人間革命と社会革命の論理とを同時に生きようとし、生きたのである。我々は社会的論理、革命の論理の何たるかに背を向けて芸術の論理の殻に閉じこもることが現代に於いては悲劇に通ずるであろうことを知っている。我々はその悲劇的な例を第二次世界大戦に於ける巨匠フルトヴェングラーの中に見た。マルクスの云う「認識された必然性」の真の意味に従って、社会意識、革命の意識を芸術創作の契機にすることが現代に於いて芸術活動することの真の意味であると思う。

### 松谷二葉 楽理 2

#### ● 芸術家という人間

私は今芸術家というものを次のように定義づけて考えて行く事にする。即ち「芸術家は芸術作品によって、存在する人間である」。何故なら芸術作品は、それを作る人間よりも遙かに完全な真理と美を永遠に内蔵しているものだからである。芸術家の肉体は処女マリアがキリストを産むような過重な難産をよぎなくされ、それがもとで短命に焼けくずれてしまうものも多い。彼は誕生した新しい芸術作品の抜けがらにすぎないのである。芸術家の主体性なぞ今や問題にならない。芸術家はその輝やかなしい分身によって、文化史に名誉ある足跡を残すのは無理であるが、それは単に自らの作品の表札としてにすぎない。彼等は単なる人間である！

しかし話を我々の身近な生活に沿わせてこの単なる人間について論じてみよう。私の知る限り、現在芸術にたずさわっている人々も単なる人間である。彼らは芸術作品を産み出そうと願い努力し、あたり前に飲食し悩み生活している。しかも彼らの中の或る者を後世の人は芸術家とみなすかもしれない。恐らく私が冒頭で行ったような定義をもつて。故に人が芸術家であるかどうかは、厳密に云えば彼とは無関係なのである。彼には生きた自己があるのみなのだから。つまり彼は結果的に見て芸術家でないかもしれないし、なりゆきによってはこの仕事の断念を余儀なくされるかもしれない。

しかし絶対に人間であることをやめるわけにはゆかないのである。そして人間である彼にとつて確かな事は、彼は動き拡張し発展してゆかねばならないことである。又同時にその動機と方向をきめ、それを監視し導びくのも彼自身である。つまり行動する彼と判断する彼が常に同居して、彼の人生を撰択し進めて行くのである。云わば人間は教育者も商人も工具も芸術家も、この自己形成の基盤において、皆同じスタートラインに立っていると云える。

そしてその上で、芸術を愛する者は、古い美の探求と新しい美の創造に向つて、自分の可能性を最後まで追求して行くのである。靈感が微笑むものならほほえもう。しかしほほえまないからと云つて失望することはない。人間の努力や苦悩は十分に価値ある生命の燃焼である。真の芸術家にはそれに華やかな歴史の賞讃が続くであろうか。



暮しの中に  
花のリズムを！  
ピアノのある生活  
オルガンの  
あるお部屋  
それは  
おちついた  
一段と豪華な  
おもむきです。  
あなたのレジャーに  
色彩を  
あなたの心に  
豊かさを贈る  
それがカワイの  
ピアノ  
オルガンです。

# 現代の芸術家と人間関係

## 美術学部

■61 芸術祭テーマ／芸術家は現代の人間関係をいかにとらえるか

我々は、自己を社会的に認識した時創作活動の過程で、現代の人間関係を如何にとらえ、それを個人の内部に変革していくのであろうか、そして人間性深くへの深求は我々をどこに導びき具体的な何を要求するのだろうか。原稿を寄せられた諸君の意見を含めて、この問題を芸大生に提起したい。

### 鈴木朝生 | 工芸2

●人間・芸術・へつたくれにならぬうち

●われ等が人間ごっちゃごちゃ 年はめぐり一歩づつよろめく足許ふみしめてそしてその内霊枢車 一方的に授けられありがたくもなく頂戴し 酔いどれ浮世の塩をなめかばそく萎た心の臓 われ等が心は銃眼の穴めぐらした城のよう 啼きわめきそして何をかを呼びたて何をやったら良いのやら 色褪せたよな兵士共そして心はふうらふら 瘦畑に揺れるひねきゅうり

●うめばしばばあも昔は乙女 去りし日のにんふかびいなすか かの日の甘い接吻も今はけったいな夢の泡 この容姿あれ悲し 絶望の傷をあれこれ撰び出し ひっぱったりむしったり黙示録作るも御勝手に かさかさかさぶた眺めつつなけなしの思いでにふけるもご一興

●不細工な欲望の権化共 ふあすとづらした男達 絶望の悪意の撰択をかかえきれずにこぼしつつ 苦汁しか残らぬあほらしき つつき殺しぶち殺し火ぜめ水ぜめあ・ら・かると 大罪犯して幾千年やれ華かなりしこの仕業 主義やら主張の相剋がこんなさまになろうとは こいつもあだむの欲の果 ふんわりふわふわ音もなく臓腑へしみ入るこのこわさ へどにも似たる誤ちもまたんの宴のそのこわさ、生きものたりし人間はきれいさっぱり地獄行き みほとけ様の保障つき 幽霊の虚無の道化なり 狂気愚劣忌まはしきわれながら四壁をとりまいて 見惚れる価値あるこのたわけ

●乙女の肌のきやんばすにべんきぶつけるあるちすと ひからびかかった脳味噌をふりかざしつつしぼりつつ よいこらどっこいこねあげてその内そいつと墓の下 その日の糧をコツコツとキツツキたりしあるちざん しんこ細工をこねまわす手つきに似たるひょうきんさ ぼろくそ画かきのきやんばすにちつとは優りし見ばえあり 尊大ぶっても意味もなし あるちすととあるちざんどっちもどっちの可能性 こちらで相方歩みより仲よく手をとり足をとり一蓮托生然るはず いでおろぎいの火花ちるちびた地球がしやれこうべ そしたら虚も無もへつたくれ ぶったくりやら殺し合いこちらでそろそろ御破算に 人間共も犬ころもこの辺で安堵をつきたいし 人間くたばりへつたくれにならぬ内 るねっさんすの栄光をもう一度試してみたいもの

### 山田荘彦 | 建築3

●歴史の中で芸術は如何に社会と対決していくか

芸術家は消費するが生産はしない。

その社会の利益に奉仕しようとしたにしても、その作品は無償的であり、価値を決めることは出来ない。

その芸術家の作品が無益である以上、その作家は良くも悪くも時代に養われるものである。もし有益なものであるならば、それは、その樹立された社会の枠の中で、定められた制度や価値や目的と関連してしか定義されないものである。

芸術家は社会に、社会の姿を示して、それを受け入れるかそれを変えることを求めるそしてともかく社会は変わる。このように社会に取って芸術家は否定の存在となる。そして彼が破ろうとする平衡を維持する保守的な力との絶ざる対立関係に置かれるのである。それは永遠の革命である。

階級のない社会に於いては、社会の内部構造が恒久的革命であるから社会原則と芸術家の対立は事実の変化が先立つか、伴って起りうるかであるから芸術家の否定性、逃れられない社会との対立関係はあてはまらなくなる。

現実の状況の中で自分は芸術表現〈建築〉を通し如何に社会と対決していくか。

歴史の中に或る役割をはたしていくか。

これこそ、今、我々すべてが直面しなければならない問題点であろう。

建築に於いては住宅の問題は、もはや住宅の問題だけではすまない。交通の問題と即ち環境の問題、都市の問題とそして政治権力の問題と発展する。

それは個人の自由が、唯それだけの限界で守り通すことが決して出来ないのと同じ問題である。人間にとって本質に必要な空間、人間に取って必要な環境と我々は、常に現実の社会の矛盾を掘り出し、それに対する解決をもって現体勢に対して戦いを続けなければならないだろう。

ここに示した芸術家の姿勢は、他の全ての分野の芸術家にも共通している問題であるはずだ。

もはや時代は芸術などと云った、もったいぶった言葉が示す概念などは遠に通り越して進んでいる。我々はその事実を目をおおう事は出来ない。

## 阿佐ヶ谷美術学園

附設機関 阿佐ヶ谷美術学園総合デザイン研究所 A・S・D・A・美術教育映画研究室



油 絵 科・工芸デザイン科  
デッサン科・建築デザイン科

普通部基礎コース

専門家コース

工業・商業デザイン専門部 (昼・A・B夜2年)

専門部入学試験—2月・4月  
附属洋画研究所 (日曜) デッサン科・色彩科・児童科

東京都杉並区高円寺3の184 電(311)7975 都電・バス—杉並車庫 地下鉄—新高円寺 国電—高円寺



# 現代の芸術家と人間関係

## 美術学部

■ 61 芸術祭テーマ／芸術家は現代の人間関係をいかにとらえるか

芸術活動が続けながら我々は、如何に現代の社会を認識し、実際の学生生活を続けているのだろうか。芸術作品が究極的には、人間性追求であることから、今年度芸術祭に於いては上記のテーマを設定し人と人の新しい関係を我々の仲間はずのようにとらえるか、各科の諸君にアンケートを求めた。

### なかざわふじこ | 芸術学1

#### ●性〈SEX〉ある人間

「女である事は何と不幸な事であろう。」キエルケゴールは云った。法文の上で女がいくらかの権利を得たからと云って、社会そのものは男性用の現状社会を肯定している今日、現実の表現としての彼の言葉は正当であろう。

女は成長する過程で周りのあらゆる保守的な大人たちから彼女の人間的な活動意欲を、慎しさ、大人しさ、家庭的とかいう美語のもとに圧迫する教育を受けさせられている。特に日本の歴史は、社会的にも宗教的にも、手練手管を用いてこの教育を続けて来ている。そして女を表象するものはほとんど、男の都合の良い社会の固定観念の産物にすぎない。

確かに現在、仕事を持つことで、経済的に独立している女達はかずおおい。しかし、これで男と精神的、心理的、社会的に全く対等であるとはいえない。結婚によって一般の女は経済的、精神的、又性生活上に於いて消極的で受身であるという個定観念をしつけられ、家事と育児と媚態を女の使命の如く信じさせられて、人間性を抹殺されていく。独立していた女さえも結婚は以前に得た権利を奪ってしまう落とし穴になりかねない。自立した女に独身者が多いのはこの故だ。男は当然の事としてこの歴史的必然に従う。女も又この作られた不平等をあきらめているので、共犯者さながらますますそれを増長させる。今日、自主的な人間は女に生まれ事実が、強い決意のいる任務をおびているのを知らう。何故なら女を人間として生きさせようとする事自体今までの便宜を失う男達に、又、今までの安易で無責任な自分の姿を享受する女達に観迎されるはずがないからだ。過去何世紀か人間の自由を現実的に女性の上に揚げた者は、女の条件そのものを科学の中で、芸術の、又文学の中で超越しようとした女達だった。勿論、今日ではそれだけが可能な道ではないはずだ。

自然法の宿命的な男女の別を越えて、本当に自由な人間関係をとりもどすには、まず女が、男と全く対等な自分の本来の姿、生命的な性ある人間の姿に目醒なければならぬ。男の地位を否定するのではなく、その地位を男と完全に同じにする為に、実際に働くことだ。女性という人間と男性という人間の関係が自然で自由で独立した必然的なものであるために……。

### 瀬谷一郎 | 油2

#### ●不老長寿の薬を作ろう

1 若し対立矛盾する二つの運動体の発展法則が正確なものであるならば現代に於ける生命の問題は生と死の対立として把握される事が出来る、その止揚された存在形式が不老長寿の状態である。

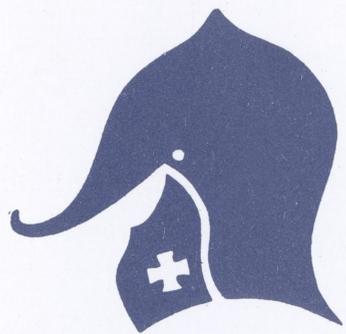
2 不老長寿の生の統一に於いて必ずそこには生の内的矛盾として生の内部に於いて新しい形の対立が生じて来る。

3 その新しい対立的矛盾として又その一つとして人間関係が問題になって来る故に生と死の対立形態の中では人間関係に於ける問題解決は全く不可能なのであり、生と死の対立的存在形式に根ざす状態がその止揚された質的転換として不老長寿の中にある様になってこそはじめて人間関係は完全に解決されるものである。ゆえに不老長寿の薬〈生の統一の象徴〉を作る事こそすべての問題解決の基幹的重要問題である。

4 不老長寿は対立体の動的発展の止揚された結果でありその運動体発展法則によれば否定は必ず出現するその否定の否定として登場させねばならぬものでありその質的発展の中にしか人間存在の持続は不可能である事は発展法則に於いては明日なことである。故に不老長寿の状態は否定の否定の立場に於てのみ可能となりうる。故に現代の人間関係は連帯意識の発達の中に於てのみ可能となりうることになる。その発展された形として現在に於ては人類が全く想像する事の出来ない高度の方法をもって解決されていく方向を持つものであると考える。

5 運動法則によれば対立する形態は止揚された形に於いて質的転換をとげるその転換が生に於ける統一でありすなわち生ある者に死のないことである。故にそこに根を持たぬ生命論は運動法則があやまっておれば不老長寿は実現しないことになる。運動法則が正しければ不老長寿は可能であり、生命の存在はそこへの止揚された運動体の中にしか持続され得ない。その時不老長寿に基礎を持つ芸術しか人間の芸術としては存在する理由はなくなる。

現代に於ける人間関係は、その中からのみ出現して来る。又人間の静的分野もその中から直接的に追求する所に不老長寿芸術がある。不老長寿芸術はベートーヴェンを百億倍人作る運動である。



### 若さをデザインする

## VARSITY SHOP

にほんばし  
**白木屋**

バーシティとは大学のペットネーム(愛称)で(大学生の店)といった意味です はちきれぬ若さと青春にあふれた売場で あなたのスポーティな魅力を引立てる フレッシュなデザインのレジャーウェアをたくさん取りそろえました

バーシティ・ショップ・3階



# 2|thursday

## 奏楽堂

整理券の必要な演奏会にはその1時間前に500枚を発行します。

### ●室内楽演奏会 | A | A. M. 10.00—P. M. 1.30

#### 1/動物の謝肉祭—サンサーンス

P 寛濶子 湯浅円 演奏/学生有志オーケストラ 指揮/石橋義也

#### 2/オーボエ4重奏曲—モーツァルト

Ob 小島庸子 V1 塩山礼子 V1a 箕浦之子 VC 坂田晃一

#### 3/ピアノ5重奏曲/鱒—シューベルト

P 山本春海 V1 伊藤雅代 V1a 田中恭子 VC 松波多美子 KB 小貫幸子

#### 4/Deuxiem Concert pour Violon en Sol Mineur/OP. 63—Serge Prokofieff

V1 井上将興

#### 5/チェロソナタ第3番/OP. 63—ベートーヴェン

VC 山岸宣公 P 安芸彊子

#### 6/ファゴットとチェロの為の2重奏曲—モーツァルト

Fg 霧生吉秀 VC 館野英司

#### 7/ヴァイオリンとチェロの為の無伴奏デュエット—モーツァルト

V1 藤沢一彦 V1a 中塚良昭

#### 8/兵士の話—ストラヴィンスキー

Cl 村井祐児 Dr 雨宮靖和 Fg 霧生吉秀 Tp 木馬寛 Tb 梶原征剛 V1—ノ瀬康夫

KB 三浦尚之 指揮/北村昭

### ●ブラスバンド特別演奏会 P. M. 1.30—3.00

### ●クラシックコンサート P. M. 3.00—4.00

組曲 白鳥の湖—チャイコフスキー

スペインの踊り チャルダッシュ他8・9曲

演奏/学生有志オーケストラ 指揮/山本直親

### ●合唱 P. M. 4.00—5.00

童話集・ミュージカルメドレー〈スターダスト他〉 合唱/声楽科3年

### ●演劇 オルフェ P. M. 5.00—7.00

スタッフ 演出/友宗保夫 製作/碓山喬康 演出助手/田中瑛 装置/荒井建 吉沢英明  
稲井肇 照明/原徹郎 舞台監督/村井和夫 音楽・効果/古堅静江

キャスト オルフェ/村上康明 ウルトビーズ/村井秀彦 書記/佐野敬彦 馬/由水紀代  
警察署長/忽滑谷章 郵便屋の声/碓山喬康 アズラエル/横山慎二  
ラファエル/杉下俊臣 ユーリデス/寺島尚子 死神/阿部正

## 第7講義室

### ●芸術祭テーマによる講演と討論会

P. M. 1.30—3.00

芸術家は現代の人間関係をいかにとらえるか/大島渚〈映画監督〉他2名

主催/芸術祭運営委員会

## 音楽学部58室

### ●音楽と社会〈講演と討論会〉 P. M. 4.00—7.00

音楽の在り方/北沢方邦〈音楽評論家〉

主催/民主主義研究会

# 3|friday

## 奏楽堂

整理券の必要な演奏会にはその1時間前に500枚を発行します。

### ●室内楽演奏会 | B | A. M. 10.00—P. M. 12.00

#### 1/ピアノ3重奏/OP. 99—シューベルト

V1 福崎久子 VC 小島士郎 P 音川紘一

#### 2/オーボエ・ホルン・ピアノの為の3重奏—ライネック

Ob 飯田陽子 Hr 余野文昭 P 伊藤瑜美子

#### 3/ヴァイオリンソナタ第7番ハ短調—ベートーヴェン

V1 前沢均 P 福井洋子

#### 4/フルート4重奏—モーツァルト

F1 平尾まゆみ V1 伊藤浩史 V1a 中塚良昭 VC 館野英司

### ●邦楽演奏会 P. M. 12.00—2.30

#### 1/能楽 宝生流仕舞 嵐山/内田芳子 経正/高尾裕子 玉葛/徳川和子

熊坂/寺井良雄 東北/野村謙 笠之段/榎本千鶴子

宝生流舞囃子 雲雀山/宮下英子

観世流連吟 田村/増井俊二 三輪修太郎

観世流舞囃子 桜川/富永育子 盛久/小川明彦

#### 2/雅楽 越天楽 其駒/雅楽研究会

#### 3/箏曲 山田流 新潮 唱/池田陽子他 箏/小笠原節子 豊田正子 塩原千恵子

嵯峨の秋 箏/小笠原節子 酒井瑛子 大島マリエ

生田流 変曲八千代獅子 箏/脇節子 栗山和子 田原優子 高野弓子他

さらし風手事 箏/羽場百合子 安藤郁代 白坂友紀子他

#### 4/長歌 操三番叟 唄/住友喜代子 前川誉公 宮武総子他 三味線/鈴木吉康

### ●室内オーケストラ演奏会 P. M. 2.30—4.00

#### 1/シンプルシンフォニー—ブリッテン 2/ブランデンブルグ協奏曲第5番—バッハ

#### 3/コントラバスとヴィオラのコンツェルト—ディッターズドルフ他

KB 上田誠 V1a 白神定典 V1 落合孝男 Cemb 湯浅円 F1 吉井幽香 指揮/石橋義也

### ●JAZZシンフォニー P. M. 4.00—5.00

The fine spots in the dark他 The fine spots in the dark他

演奏/学生有志オーケストラ 指揮/田仕正毅

### ●学生交響楽団演奏会 P. M. 5.00—7.00

交響曲第6番—チャイコフスキー他 指揮/若杉弘

## 第7講義室

### ●芸術祭テーマによる講演と討論会 P. M. 1.30—3.00

芸術家は現代の人間関係をいかにとらえるか/岡本太郎〈画家〉 主催/芸術祭運営委員会

### ●デザインに関する討論 P. M. 3.00—6.00

デザイナーの将来はどうあるべきか/菊竹清訓〈建築家〉未定 粟津潔〈デザイナー〉

主催/建築家・工芸科2年・芸術学科

## 音楽学部58室

### ●音楽と社会〈講演と討論会〉 P. M. 3.00—6.00

音楽と社会体制/林光〈作曲家〉 主催/民主主義研究会

# 4 | saturday

## 奏楽堂

整理券の必要な演奏会にはその1時間前に500枚を発行します

### ● 室内楽演奏会 | C | A. M. 10.00—P. M. 1.00

#### 1/ホルン3重奏/OP. 40—ブラームス

Vl 太田菊子 Hr 余野文昭 P 米田登美子

#### 2/Prélude et danse—Jacques Castérède

P 記内良子 Tb 野武重忠 浦田健次郎 中村清紀 Tv 長岡英雄 Dr 雨宮靖和 山口保宣

#### 3/ヴァイオリン2重奏曲—ボッケリーニ

Vl 林田紀子 Vl 能見和絵

#### 4/管楽5重奏/3つの断章—イベール

F1 伊藤栄子 Ob 鈴木尚雄 Cl 永田健一 Fg 霧生吉秀 Hr 小野晏敬

#### 5/弦楽4重奏ニ短調—モーツァルト

Vl 伊藤浩史 Vl 岩崎眉乃 Vla 野上卓之博 VC 矢島富雄

#### 6/打楽器独奏/打楽器の為の協奏曲—Bazza

Dr 雨宮靖和

#### 7/ピアノ3重奏イ短調/偉大なる芸術家の思い出/OP. 50—チャイコフスキー

Vl 大木多美子 VC 飛山宣雄 P 高原節子

#### 8/ブランデンブルグ協奏曲第6番—バッハ

Va 中塚良昭 禱貞夫 VC 矢島富雄 飛山宣雄 服部善夫 KB 上田誠

#### 9/セレナーデ第12番—モーツァルト K-V388番

Ob 小島庸子 鈴木尚雄 Cl 永田健一 栗原浩 Fg 山本武司 霧生吉秀

Hr 鈴木文昭 松原千代繁

#### 10/合奏協奏曲第8番—コレルリ

演奏/弦楽科有志 指揮/金子登

### ● 現代に於ける音楽と聴衆〈公開討論会〉

P. M. 1.00—5.00

第1部 テープとディスクによる現代日本の作品/角倉一郎〈音楽評論家〉

第2部 音楽と聴衆/諸井 誠〈作曲家〉

時代と音楽/間宮芳生〈作曲家〉

第3部 討論会/司会/角倉一郎 講師/諸井誠 間宮芳生 矢代秋雄〈作曲家〉

主催/芸術祭運営委員会

### ● ポップスコンサート P. M. 5.00—7.00

#### 1/ラプソディー・イン・ブルー—ジョージ・ガーシュイン

P 館野泉 指揮/若杉弘

#### 2/トランペット・トリオ—アンダーソン

Tp 佐々木節夫 来馬 日置二郎

その他 コール・ポーター ヴィクター・ヤング ルロイ・アンダーソン リチャード

ロジャース ジョージ・ガーシュイン等フル編成のオーケストラによる傑作の演奏

## 第7講義室

### ● 映画 P. M. 1.30—2.30

実験α 主催/芸術学科

# 5 | sunday

## 奏楽堂

整理券の必要な演奏会はその1時間前に500枚を発行します

### ● 作品発表会 A. M. 10.00—P. M. 1.30

#### 1/朴賢治 作曲1—弦楽4重奏

#### 2/小林研一郎 作曲2—歌曲 老漁夫の詩

#### 3/北村昭 作曲3—ピアノの為のソナタ

#### 4/栗原浩一郎 作曲2—歌 砂の枕

#### 5/吉崎清富 作曲2—弦楽4重奏曲

#### 6/野田暉行 作曲2—Quatour

#### 7/岡本秋典 作曲3—弦楽4重奏曲

#### 8/田辺恒弥 作曲4—交響詩

#### 9/木村雅信 作曲1—ヴァイオリンとピアノの為のソナタ

#### 10/坂田晃一 器楽2—コントラバスとピアノの為のソナタ

#### 11/森川隆之 作曲2—ピアノの為の小品 I・II

#### 12/浅野義弘 作曲2—ピアノの為の1楽章

#### 13/鈴木英明 作曲3—弦楽4重奏曲 1961

#### 14/石崎きよ 作曲3—ヴァイオリンとヴィオラの為のソナタ

#### 15/吉本隆行 作曲3—ヴァイオリンの為のソナタ 1960

#### 16/金子篤生 楽理3—鎮魂曲から I 荒廃に立ちて〈そのII〉 II 瓦礫の逡他

#### 17/山田光生 作曲4—ヴァイオリンとピアノの為のソナタ

#### 18/雨宮靖和 作曲4—バルキートーン 1961

### ● 弦楽合奏 P. M. 1.30—2.30

Anliche Danze ed Arie Per Liuto—レスピーニ 演奏/1年弦楽科 指揮/福元裕

### ● 室内楽演奏会 | D | P. M. 2.30—5.30

#### 1/ピアノ5重奏/鱈—シューベルト

P 松谷翠 Vl 大川内弘 Vla 白神定典 VC 館野英司 KB 三浦勝彦

#### 2/弦楽4重奏曲第1番—長調 作品18の1—ベートーヴェン

Vl 落合孝男 Vl 一ノ瀬康夫 Vla 禱貞夫 VC 田村宏

#### 3/ピアノ2重奏/2台のピアノの為のソナタ—モーツァルト他

P 荒憲一 平井丈二郎

#### 4/弦楽4重奏曲/死と乙女—シューベルト 演奏/ソナーレ弦楽4重奏団

Vl 藤沢一彦 Vl 能見和絵 Vla 中塚良昭 VC 飛山宣雄

#### 5/ピアノ5重奏/OP. 44—シューマン

P 村谷百合子 Vl 長井明 Vl 井上洋子 Vla 白神定典 VC 内田勝彦

#### 6/ブラジル風のバッハ—ヴィラ・ロボス 演奏/チェロ専攻学生

### ● 学生交響楽団演奏会 P. M. 5.30—7.00

交響曲第6番—チャイコフスキー他 指揮/若杉弘

## 第7講義室

### ● 映画・松川事件/監督・山本薩夫

### ● 芸術祭テーマによる講演と討論会 P. M. 1.30—3.00

芸術家は現代の人間関係をいかにしてとらえるか/花田清輝

主催/芸術祭運営委員会

## 音楽学部58室

### ● 音楽と社会〈講演と討論会〉 P. M. 1.30—5.00

音楽活動と社会的認識・実践活動との関係/井上頼豊〈演奏家〉

主催/民主主義研究会

# 講演 討論会のご案内及び解説



## 芸術祭テーマの講演会

11月2・3・5日/PM1.30-3.00/第7講義室

● 芸術家は現代の人間関係をいかにとらえるか、= 61 芸術祭テーマ

2日・木/PM1.30-3.00/第7講義室

講師 大島渚〈映画監督〉他2名

3日・金/PM1.30-3.00/第7講義室

講師 岡本太郎〈画家〉

5日・日/PM1.30-3.00/第7講義室

講師 花田清輝〈評論家〉

主催/芸術祭運営委員会

世界史の体験を我々が血肉として受け継ぐ時我々の人格が決定する。現存する我々の人間関係は、従って世界史の総括に依存しながら同時に人格の意志によって止揚される世界史の必然として求められる。男女の関係に於いてその特徴を極めて具体的に指摘出来るが単に資本主義に於ける階級矛盾としてではなく愛と憎、美女と醜女、人間が捕え得る全る対立概念と共に、とりわけ「生と死」と云う最大の矛盾と共に我々の人間関係は存続する。我々の生命は我々の肉体のメカニズムによって規定されるが世界史はそこに技術を獲得し生命の再生産にあたって来た。我々が自らの働きを芸術に求める時、芸術がその一技術に過ぎぬ事を恐れてはならない。すなわち芸術の機能が自然科学の機能、社会科学の機能、全ゆる分野の各々の機能と共に、しかも互いに唯一の関係をもって生命の追求に果たさるべき事を知るべきである。それはそれが人間の総意志に立脚するからである。我々が自己に生活を求める時その陣痛は生命との対決でありそれは我々の任務の母体としてある。宿命という言葉の逃避的な意味との袂別が同時に積極性へと飛躍せねばならぬ。

## 音楽と社会

11月2・3・5日/音楽学部58室

2日・木/AM1.00-PM1.30/58室

● 音楽のあり方

講師 北沢方邦〈音楽評論家〉

3日・金/PM3.00-6.00/58室

● 音楽と社会体制

講師 林光〈作曲家〉

5日・日/PM1.30-5.00/58室

● 音楽活動と社会的認識・実践活動の関係

講師 井上頼豊〈演奏家〉

主催/民主主義研究会

世の中のことを少しでも正しく認識し、よくしてゆきたい、と思っている人が集って出来ているのが民研である。その為に日本の社会機構を、特に経済面から認識しようと努力して来た。がそのようなことをやりながら一体、こんなことをやって何になるのだろうという疑問が心の隅にあった。この疑問の夏の合宿の時に問題にし意見をぶっつけ合ってみることになった。

そこで出た意見をまとめると大体次の二つになる。

1 世の中のことを少しでも正しく認識し、よくしてゆこうとすることは人間として当然やらなければならないことだと思ふからやっているのだという意見。

2 更にこのことがもっと自分の音楽にかかわってくるからだからやっているのだという意見。

そこでお互いに何故そのように思うのか述べあっていく内に色々な疑問が続出した。何の為に社会認識をするのか、それはどんな関係にあるのか、等々。

そこで今度の芸術祭で、〈音楽と社会〉と云うようなテーマを取り上げることになったのである。

## デザインに関する討論

11月3日・金/PM3.00-6.00/第7講義室

● デザインと人間疎外

出席 菊竹清訓〈建築家〉(未定)

栗津 潔〈デザイナー〉

主催/建築科・工芸科2年・芸術学科

生活空間を問題とする建築科と工芸科には多くの矛盾や対照へのアプローチの違いがありながらも連帯意識がある。しかも我々を迎える社会分野にも多くの共通問題がある。この様な状況に二つの科があるかぎり研究、創作活動の過程において共通の壁、共通のジレンマの発生することも事実であろう。実行委員会の討論でも多くの共通問題が現われ、それを実証した。この様な問題に解決の糸口をあたえるために我々はこの講演会を企画した。共通の壁、共通のジレンマ、それを系統立て整理するのはむずかしい仕事であった。しかし、そのさまざまな問題の裏打ちとして出て来るのは常に現代人を浸蝕して止まない疎外という現実であった。かかる人間疎外の状況と創作活動との間に山積する問題又その克服の可能性等を新進気鋭のデザイナーと提起し我々も共に討論し考えようと言う訳である。これを機会に我々デザイン学生に創作理念やその展望を得る導因となるならば、この企画が成功であり有益であったことになる。

● 映画・実験α

11月4日・土/第7講義室

主催/芸術学科1年

● 映画・松川事件/監督・山本薩夫

11月5日・日/第7講義室

AM11.00-P.M1.00〈第1回上映〉

P.M3.00-5.00〈第2回上映〉

主催/美術学部自治会

## 現代に於る音楽と聴衆

11月4日・土/PM1.00-5.00/奏楽堂

第1部/PM1.30-2.30

● テープとディスクによる現代日本の作品

講師 角倉一郎〈音楽評論家〉

第2部/PM2.30-4.00

● 音楽と聴衆 講師 諸井 誠〈作曲家〉

● 時代と演奏 講師 間宮芳生〈作曲家〉

第3部/PM4.00-5.00

● 討論会

司会 角倉一郎

講師 諸井誠・間宮芳生・矢代秋雄

主催/芸術祭運営委員会

今日、演奏家は依然としてベートーヴェンを愛し、極く前衛的な作曲家達は新しい音素材の発見や偶然性の深求に余念がない。しかし一方、これらの音楽に対して極めて冷淡であり、ほとんど反応を見せることのない聴衆—彼等はそのどこにも自分自身の音楽を見出し得ないのではないだろうか又、一度街に溢れる音の実状に注意すれば現に圧倒的多数をもって、低俗なる流行歌〈輸入品も含めて〉が大衆から支持されている。しかしそう云った事実の半面真に音楽的なもの、高度に洗練された感受性によって、我々が音楽—作曲・演奏すると言う行為、それは一体いかなるものであろうか又現代に於いて音楽とは、どうあるべきなのであるか、〈現代音楽は難解だ〉と云わしむる大ざっぱな定評に対して作曲家は、又、大衆の要求と現に演奏されている音楽のへだたりに対して演奏象はいかに考え、それらの問題を作品なり演奏内容なりにどのように反映するのであろうか。この機会に、我々はこれらの問題について広く討論し、これからの方向をさぐり出したいと思う。

# YAESU PIANO

● ピアノ、オルガンのことなら

東京駅八重洲南口前  
(281)0980-3,0501

## 八重洲ピアノ

# SCHWESTER PIANO

シュベスター・ピアノ販売株式会社  
東京都大田区北糀谷町2479 (731)3547-0307-9075

# 音楽学部学友会 美術学部自治会

学友会の使命は、学生相互の親睦と協調精神の高揚にあり、自治活動を通じて社会的教養を積み、芸術文化発展に寄与し得る人格の形成にもある。学友会は毎年自治会と共同で、年間最大行事の芸術祭を催し、多彩な催しを外部に公開すると共に、学生自身が真剣に自己の立場を認識する場としている。しかし、これらの主旨は、どの程度まで達成されたろうか。学友会にしろ、芸術祭にしろ、単に一部の学生のためにあるが如き現象を与えてはいなかったか。大半はことごとく無関心であるのが現実だ。ここに問題がある。我々学生間には、自己中心主義という伝統的ムードがある。協調精神に欠けている。我々が社会的認識に疎いという証拠がここにもある。芸術活動が自己表現である以上、自己に従順である面は必要だが、それは芸術活動上の態度であり、学校、社会という共同体に生活する以上、このムードは打破せねばならぬ。社会的視野を広げ、自己の立場を認識する必要がある。社会情勢は刻々と移り変っている。マスコミと機械文明の発達により自らの本質を喪失し、惰性で生きている人間の群、一方国際情勢は、ベルリンをめぐる東西対立は、異状な危機感を呈している。世論や政治的良識は無視され、人類の運命は核兵器の能力を誇示し、相手に脅威を与えることが、戦争防止の唯一の方法であると信じている狂信者共の犠牲にされようとしている。そこにあるのは人類破滅の恐怖だけだ。現代芸術は、したがって、これらの現象の中にある人間関係に探求の対象が向けられる。我々も現在の立場に於いて真剣に考える必要がある。今年度の芸術祭を通じて短期間だがこれらの問題を含めて、自分の疑問、意見を卒直に交換し、さらに発展して行きたい。

竹田由彦 作曲

〈芸術祭によせて〉

芸術は人間の悲願、斗争、絶望の目録であってはならない。何んとなれば、この目録は現代に於いて、人間世界史の意志を根柢から否定することを意味するからである。芸術家は現代の人間関係を如何にとらえるか。我々は既存の人間関係をこれまでの人間世界史の発展の中でとらえ、とりわけ人間社会の階級関係を明らかにし、その限りに於いての現存する人間関係をとらえることが今や可能となった。マルクスに於いて共産主義は資本主義を否定した。それは人間構造の転換を人間世界史の必然的な意志として予言したものであった。共産主義運動が原水爆をはじめとするあらゆる弾圧にあまんじながら、現代に於いて強力に持続されるゆえんはしんにその意味に於いてである現代に於いて、資本主義階級関係がもたらす人間疎外の深刻な局面は、我々が日常生活の中で体験し得る極めて支配的な暗雲として指摘出来る。しかし我々にとって、我々の絶望、否、妥協さえも、我々の意志を代表するものではあり得ない。しかもこの暗黒の指摘は唯一つ、運動の中で止揚されるべき真のルネッサンスとの関係に於いてのみ可能である。生と死、愛と憎、我々が直面する人間の問題は敵対する二つの概念をその関係に於いて確実にとらえ、人間世界史がこれを如何に止揚すべき必然性をもつかの点で、切り開くことにこそある。我々は莫大な思索を強要されている。芸術がその分野に於いて荷うべき任務は原野の開拓にこそ求められ、それは一切の人間の意志の中で全結集されるべきものとしてある。われわれの原野はほとんど未開拓なのである。

浅野義生 油2

# 芸術祭運営委員会

ぼくらの学園には、今、真のロマンチズムと呼ばれるものが欠けているのではないだろうか。

過去において学園は、その中にとじこもる限り、社会の荒波から隔絶されたロマンの温床を提供していた。しかしながらその温床は、華嚴の滝の一高生に象徴される否定的ロマンチズムをはぐくみ、それは常に社会から遊離したところに存在していた。秋空の高さと、透明さを持ちながら一方そこに温床の植物の弱さをぼくらは見る。もはや、戦前のロマンチズムを、ぼくらの世代に持ちこむことはできない。温床の囲いは取りはずされ、ぼくらの頭上を寒風は客赦なく吹く。けれども、ぼくらは、寒風に吹きまわれ、霜に痛めつけられた植物の、美しい開花を知っている。それをぼくらは新しいぼくらの世代のロマンチズムだと考えたい。

新しいぼくたちのロマンチズムとは、現実を回避しない肯定的ロマンチズムと呼び得る姿勢である。現実を直視し、これにぶつかり、しかも美しく開花する力である。理想をツボミのまま枯らせてはならない。理想を目指して、絶えず可能性を追求するところにぼくらの主体性は生れるのだから。そして真の主体性の確立されたところに真の人間性も、人間関係も生れるのだから。学園が孤高であるとされ、芸術が青白く狂い咲いていた季節は去った。社会の波で自らを洗い、寒風に頬をさらすことで輝くそんな学園を、芸術を、ぼくたちの学園に花開かせたい。

益子義弘 建築2

# 芸術祭担当責任者

## 企画部

【芸術祭運営委員長】竹田由彦・作曲 1  
【芸術祭運営副委員長】益子義弘・建築 2

## 編集部

【プログラム企画】伊藤雅代・器楽 3  
【プログラム編集】桜井郁男・工芸 2

## 全体計画部

【会場割付・時間調整】宮下実・油 2  
市川典子・器楽 2

【プロットプラン】宮下実・油 2

【野外ステージ】土岐新・建築 3  
長谷川芳彦・器楽 1

【模擬店】菅原二郎・彫刻 2

井上将興・器楽 1

【展示・催物】浅野義生・油 2

【討論会・公開ゼミ】中沢富士子・芸術 1  
船山隆・楽理 2

## 宣伝渉外部

【プロ販売・学内外PR】戸田康一・白 2  
西勇男・器楽 1

## その他

【会計】篠原園子・工芸 1

花田やすえ・楽理 3

【導入】朝岡康二・工芸 2

## ●プログラム企画・編集委員

【企画委員長】伊藤雅代・器楽 3

【企画委員】大城昌夫・図 3 朝岡康二・工芸 2  
宮脇昭彦・図 3

花田やすえ・楽理 3

【アートディレクター】桜井郁男・工芸 2

【予定表】及部克人・図案 4

【案内図】桜井郁男・工芸 2

【広告デザイン】伊東敏彦・工芸 2

【広告取材】前沢義雄・工芸 1

【ポスター・ダイレクトメール】

村山豊夫・図 4

**EASTEIN / イースタイン**  
**TOKYO PIANO**

東京ピアノ工業株式会社

東京都中央区銀座西の五 TEL (571) 0075・0981

是非御試弾下さい  
独乙ブルツナー・英国ジョンブロードウッド

日本総代理店  
株式会社 内外ピアノ社

東京都千代田区神田神保町一丁目一番地

電話 (291) 2583・2584

# 美術学部

## ●絵画科

**日本画**  
**36年度生**  
 井上秀城  
 岩井香楠子  
 芥民栄  
 加藤紀蔵  
 河合磯砂子  
 小松省三  
 六角信子  
 神西紘子  
 染川英輔  
 田淵俊夫  
 田淵隆三  
 中野毅  
 長繩和人  
 那須亮子  
 林栄子  
 深町知佐子  
 福井爽人  
 藤井康夫  
 松野三知  
 吉木丈

**35年度生**  
 新井規夫  
 小橋紘一  
 井上純明  
 猪木明美  
 小川紀子  
 川村紫朗  
 小嶺章  
 古村紘一  
 齋藤小枝子  
 桜井美智子  
 滝沢具幸  
 戸田康一  
 中島龍文  
 日置宏輔  
 広瀬純子  
 松井絢子  
 松本俊喬  
 水野たか子  
 三宅三智子  
 矢ノ崎梓

**34年度生**  
 伊藤林杉  
 大沢瑞美  
 緒方洪章  
 上村松博  
 佐々木喜与子  
 清水美恵子  
 清水潤子  
 下田義寛  
 中村貴和子

中村要子  
 蛭川泉  
 榊田きみ  
 堀越保二  
 松井和弘  
 毛利雅治

**33年度生**  
 有賀弘和  
 大矢十四彦  
 大山鎮  
 小倉美由紀  
 加藤裕子  
 河津祥子  
 菊池富子  
 黒沢正  
 古財秀昭  
 近藤真佐子  
 齋藤せつ子  
 坂輪宣敬  
 鈴木敏之  
 田中基美  
 高橋幸也  
 宮本和郎  
 山越義雄

**32年度生**  
 秋葉欣三

**油画**  
**36年度生**  
 阿久津圭子  
 綾部良勝  
 有田征郎  
 氏家弘隆  
 内山懋  
 梅地浩介  
 岡崎信吾  
 数野繁夫  
 鎌形照夫  
 壁下孝  
 菊地宏子  
 北村亮  
 城戸義鈴  
 木村美鈴  
 国塩準之助  
 高知時代  
 小谷英紀  
 柴井三郎  
 桜庭優  
 佐中由紀枝  
 沢野水綾  
 高田明義  
 鷹野ゆき子  
 高橋恵子  
 高橋ひろの  
 高橋正弘

**35年度生**  
 浅井法子  
 浅野義生  
 麻生秀穂  
 阿部正  
 天野和子  
 飯沼道  
 飯沼茂男  
 井口庸子  
 伊藤轟  
 上野廻  
 大川真太郎  
 大木英穂  
 沖保洋  
 小野寺健一郎  
 片山悠紀子  
 小島福次  
 小松初実  
 近藤多美  
 後藤忠雄  
 柴田賢治郎  
 瀬谷一郎  
 高杉代志宏  
 高村充  
 高柳裕  
 田畑雄  
 苫米地京子  
 友宗保夫  
 中島淑美  
 新沼涉  
 二宮正憲  
 乃木弥生  
 服部早苗  
 播磨采子  
 原徹郎  
 檀田伸也  
 平井淳子

高橋義治  
 竹田和子  
 竹川龍朗  
 龍村明  
 立石光夫  
 南波昌子  
 西山和夫  
 西山松生  
 春田光一  
 原秀樹  
 二名ノリコ  
 文扶恵子  
 堀内昭  
 増谷直樹  
 三谷毅彦  
 茂登山東一郎  
 守屋由紀子  
 山本一夫  
 依田英和  
 若林茂照  
 渡辺弘

**34年度生**  
 青山光佑  
 赤川勲  
 秋元幸茂  
 秋元幸茂  
 安徳瑛  
 岩崎正  
 浮谷朝江  
 大須賀虎光  
 小川晴代  
 小川美勲  
 加藤博康  
 岸田夏子  
 木村鬼子雄  
 窪蘭公一  
 倉田精一  
 小村美奈子  
 近藤恭子  
 齋藤恭子  
 崎永忠孝  
 佐藤栄子  
 鮫島新作  
 杉本三三  
 杉山繁男  
 高橋萌子  
 中沢高千夫  
 中村忠良  
 中村光一  
 中安清  
 野田哲也  
 羽田裕  
 花岡寿生  
 浜田美和子  
 早瀬英記  
 枚田美智子  
 広井利三郎  
 深草広平  
 深沢水恵  
 藤田登  
 藤永正二  
 古橋紀子  
 星野鉄之  
 堀江爽子  
 松枝京子  
 山邑朗子

**35年度生**  
 浅井法子  
 浅野義生  
 麻生秀穂  
 阿部正  
 天野和子  
 飯沼道  
 飯沼茂男  
 井口庸子  
 伊藤轟  
 上野廻  
 大川真太郎  
 大木英穂  
 沖保洋  
 小野寺健一郎  
 片山悠紀子  
 小島福次  
 小松初実  
 近藤多美  
 後藤忠雄  
 柴田賢治郎  
 瀬谷一郎  
 高杉代志宏  
 高村充  
 高柳裕  
 田畑雄  
 苫米地京子  
 友宗保夫  
 中島淑美  
 新沼涉  
 二宮正憲  
 乃木弥生  
 服部早苗  
 播磨采子  
 原徹郎  
 檀田伸也  
 平井淳子

藤岡冷子  
 藤田清孝  
 前川寿々子  
 馬越陽子  
 益田直子  
 円池茂  
 水野翠  
 宮下実  
 安田義弘  
 山川輝夫  
 山田嘉彦  
 山本一郎  
 吉井高重  
 吉田東

**34年度生**  
 青山光佑  
 赤川勲  
 秋元幸茂  
 秋元幸茂  
 安徳瑛  
 岩崎正  
 浮谷朝江  
 大須賀虎光  
 小川晴代  
 小川美勲  
 加藤博康  
 岸田夏子  
 木村鬼子雄  
 窪蘭公一  
 倉田精一  
 小村美奈子  
 近藤恭子  
 齋藤恭子  
 崎永忠孝  
 佐藤栄子  
 鮫島新作  
 杉本三三  
 杉山繁男  
 高橋萌子  
 中沢高千夫  
 中村忠良  
 中村光一  
 中安清  
 野田哲也  
 羽田裕  
 花岡寿生  
 浜田美和子  
 早瀬英記  
 枚田美智子  
 広井利三郎  
 深草広平  
 深沢水恵  
 藤田登  
 藤永正二  
 古橋紀子  
 星野鉄之  
 堀江爽子  
 松枝京子  
 山邑朗子

**35年度生**  
 浅井法子  
 浅野義生  
 麻生秀穂  
 阿部正  
 天野和子  
 飯沼道  
 飯沼茂男  
 井口庸子  
 伊藤轟  
 上野廻  
 大川真太郎  
 大木英穂  
 沖保洋  
 小野寺健一郎  
 片山悠紀子  
 小島福次  
 小松初実  
 近藤多美  
 後藤忠雄  
 柴田賢治郎  
 瀬谷一郎  
 高杉代志宏  
 高村充  
 高柳裕  
 田畑雄  
 苫米地京子  
 友宗保夫  
 中島淑美  
 新沼涉  
 二宮正憲  
 乃木弥生  
 服部早苗  
 播磨采子  
 原徹郎  
 檀田伸也  
 平井淳子

**35年度生**  
 浅井法子  
 浅野義生  
 麻生秀穂  
 阿部正  
 天野和子  
 飯沼道  
 飯沼茂男  
 井口庸子  
 伊藤轟  
 上野廻  
 大川真太郎  
 大木英穂  
 沖保洋  
 小野寺健一郎  
 片山悠紀子  
 小島福次  
 小松初実  
 近藤多美  
 後藤忠雄  
 柴田賢治郎  
 瀬谷一郎  
 高杉代志宏  
 高村充  
 高柳裕  
 田畑雄  
 苫米地京子  
 友宗保夫  
 中島淑美  
 新沼涉  
 二宮正憲  
 乃木弥生  
 服部早苗  
 播磨采子  
 原徹郎  
 檀田伸也  
 平井淳子

渡辺喬一  
 和田義彦

**33年度生**  
 相笠昌義  
 青山龍志  
 天春永次  
 磯崎伊勢男  
 内海和子  
 江本匡志  
 小田正人  
 木下明子  
 熊本正義  
 久米井宮子  
 小島房子  
 小林静悟  
 小林幹利  
 齋藤研  
 酒井義博  
 桜井英嘉  
 佐藤守  
 芝草一  
 末永歌子  
 高木幹夫  
 高橋克彦  
 高橋知博  
 鳥生恵夫  
 内藤寛子  
 中沢知房  
 永松操  
 西岡一  
 長谷川徹  
 堀貴義  
 堀場清  
 福田雅  
 古屋達  
 細田幸子  
 松並孝  
 森田益夫  
 山田康子  
 森本兼司  
 森本草介  
 山崎勝康  
 横尾正夫  
 渡辺静子

**34年度生**  
 池田太郎  
 伊佐周  
 白井佳夫  
 熊井淳一  
 佐々木球介  
 佐々木皓子  
 白根紀代子  
 神藤吉彦  
 高橋久美子  
 高橋洋  
 手塚登久夫  
 橋本深  
 丸山映  
 見崎泰中  
 宮武治子  
 三輪龍作  
 村井和夫  
 村岡毅一  
 横山善一  
 渡辺隆根

**35年度生**  
 尾島正広  
 小井戸信雄  
 波谷三朗  
 長崎茂

**32年度生**  
 今井信吾

**彫刻科**  
**36年度生**  
 会田節雄  
 新垣純一  
 岩切俊弘  
 川下成海  
 北島一夫  
 小桜謙  
 坂本宣昭  
 佐々木憲章  
 島田昭子  
 島田勝吾

新悠喜雄  
 高島文彦  
 長山キミ子  
 春山キミ子  
 平野武司  
 細井政広  
 松永忠興  
 丸橋直継  
 山本武彦  
 山本輝之  
 山本正道  
 淀川睦子

**35年度生**  
 市川悦也  
 和泉達  
 榎本栄子  
 遠藤洪平六  
 沖村正康  
 加藤伸也  
 口羽邦彦  
 熊田勇  
 後藤とみ子  
 菅原二郎  
 滝徹  
 武井難之  
 中井端代  
 藤岡純  
 堀尾紀之  
 松本進  
 水島石根  
 三浜善直

**34年度生**  
 池田太郎  
 伊佐周  
 白井佳夫  
 熊井淳一  
 佐々木球介  
 佐々木皓子  
 白根紀代子  
 神藤吉彦  
 高橋久美子  
 高橋洋  
 手塚登久夫  
 橋本深  
 丸山映  
 見崎泰中  
 宮武治子  
 三輪龍作  
 村井和夫  
 村岡毅一  
 横山善一  
 渡辺隆根

**33年度生**  
 尾島正広  
 小井戸信雄  
 波谷三朗  
 長崎茂

本多義紀  
 三島祥子  
 蜜波羅伸三  
 水谷たき  
 赤堀光信  
 荒尾克彦  
 今井由緒子  
 河合隆三  
 工藤健  
 猿田一幸  
 秋野亥左半  
 柘植知利  
 西山三郎  
 橋口弘道  
 吉田洋子

**32年度生**  
 桜井晴夫

**工芸科**  
**36年度生**  
 天野幾雄  
 荒井健  
 荒木健也  
 有賀一宇  
 伊志良光  
 伊藤方也  
 稲葉正夫  
 井上正作  
 井上瑞枝  
 岩崎隆  
 内海清美  
 江藤日出男  
 大川允  
 太田隆子  
 大谷茂暢  
 加藤紗枝子  
 加藤孝  
 上条健一  
 川井良次  
 木全時彦  
 日下洋一  
 口田哲也  
 国直直敬  
 窪谷信子  
 倉橋道子  
 小林征治  
 後藤武光  
 齋藤巳喜男  
 相良さち子  
 崎山頭彦  
 佐藤章子  
 篠崎恭子  
 篠原園子  
 島崎尚一  
 清水正義  
 普沢利雄  
 杉下俊臣  
 鈴木富士夫  
 園山博子  
 染葉隆夫

**33年度生**  
 尾島正広  
 小井戸信雄  
 波谷三朗  
 長崎茂

高橋瑛彦  
 武居久瑠美  
 武井秀彦  
 田島征哉  
 多田幹雄  
 田中久司  
 田辺弘基  
 田村武司  
 巴敏男  
 友永兼介  
 中野久央  
 中山礼吉  
 中山礼吉  
 西島満智子  
 龍島孝子  
 長谷川正広  
 長谷川正広  
 平沢靖男  
 不破由晴  
 堀田明裕  
 前沢義雄  
 増田昌弘  
 松下洋  
 安井雅子  
 山口孝雄  
 山口博一  
 横井時英  
 吉岡徹  
 吉沢英明  
 由水紀代  
 吉本直貴  
 渡部紀綱

**35年度生**  
 赤松武寛  
 朝岡康二  
 飯塚重晴  
 石山喬康  
 石本藤雄  
 伊藤東彦  
 伊藤東彦  
 井上詩野  
 岩村和朗  
 岩本俊子  
 内川文広  
 遠藤勤  
 太田直美  
 岡村泰成  
 荻野文彦  
 上条喬久  
 亀谷幸子  
 川上元美  
 北村隆彦  
 倉石阿美子  
 樽松太郎  
 黒川威人  
 功能厚生  
 小西昇  
 佐久間義敬  
 桜井郁男  
 桜内邦子  
 笹川寛

**34年度生**  
 飯田力也  
 石坂丈児  
 伊志良博  
 伊藤清忠  
 内野輝夫  
 大倉富美雄  
 大城昌夫  
 片山弘毅  
 鹿妻浩二  
 川路陽正  
 川村康一  
 河村暢夫  
 岸本義弘  
 波谷三朗  
 後藤照雄

**33年度生**  
 尾島正広  
 小井戸信雄  
 波谷三朗  
 長崎茂

佐々木照  
 佐藤一正  
 清水久美子  
 下瀬泰子  
 杉本浩太郎  
 鈴木朝生  
 周村研二  
 関口逸平  
 田島俊雄  
 田中悦子  
 田中央  
 津田宏  
 中川多喜夫  
 西巻良雄  
 西山英照  
 忽滑谷章  
 橋本薫  
 橋本桂三  
 原直生  
 平川弘道  
 平川義浩  
 比良木高幸  
 広瀬滋夫  
 藤本誠  
 古河篤  
 古川隆久  
 堀口光彦  
 堀越龍男  
 堀場たかね  
 松永真  
 増田恭孝  
 松田正己  
 松山正  
 八木正仁  
 矢部雅一  
 山口茅子  
 山本道子  
 吉川水城  
 吉信弘美  
 米山泰一  
 若村忠良  
 渡辺利夫  
 渡辺友季子

**34年度生**  
 飯田力也  
 石坂丈児  
 伊志良博  
 伊藤清忠  
 内野輝夫  
 大倉富美雄  
 大城昌夫  
 片山弘毅  
 鹿妻浩二  
 川路陽正  
 川村康一  
 河村暢夫  
 岸本義弘  
 波谷三朗  
 後藤照雄

**33年度生**  
 尾島正広  
 小井戸信雄  
 波谷三朗  
 長崎茂

**33年度生**  
 尾島正広  
 小井戸信雄  
 波谷三朗  
 長崎茂

桜井道子  
 田中瑛  
 原口曉美  
 広瀬雅彦  
 福田英秋  
 古橋恵子  
 牧田充史  
 松岡皓子  
 松田緑  
 松永勲  
 松永逸子  
 宮沢利昭  
 坂本綾子  
 坂本達  
 沢橋涉  
 横田正子  
 鈴木貞介  
 高橋篤雄  
 竹内幹子  
 豊咲保夫  
 永松美智子  
 野村美智子  
 長谷川裕  
 村山豊夫  
 矢口横郎  
 矢島洋三  
 湯村汎  
 吉井宏  
 吉田章夫  
 若林久二  
 川原肇子  
 畑中寛治  
 中丸哲夫

**35年度生**  
 安達靖祐  
 伊藤広利  
 岡良治  
 奥二郎  
 門田光秋  
 木全本  
 木村戦太郎  
 久保田晴彦  
 小泉力雄  
 齋藤剛  
 関源司  
 高梨広孝  
 津上芳子  
 中川昭子  
 中谷昭子  
 堀江万里子  
 宮川清  
 山内達雄  
 渡辺隆  
 渡部秀昭

**34年度生**  
 飯田力也  
 石坂丈児  
 伊志良博  
 伊藤清忠  
 内野輝夫  
 大倉富美雄  
 大城昌夫  
 片山弘毅  
 鹿妻浩二  
 川路陽正  
 川村康一  
 河村暢夫  
 岸本義弘  
 波谷三朗  
 後藤照雄

**33年度生**  
 尾島正広  
 小井戸信雄  
 波谷三朗  
 長崎茂

石渡和子  
 稲井肇  
 今本忠男  
 泉汎  
 及部克人  
 角幡進  
 桂秀年  
 加藤公一  
 金子雅充  
 鍵谷孝子  
 小宮清  
 坂本綾子  
 坂本達  
 沢橋涉  
 横田正子  
 鈴木貞介  
 高橋篤雄  
 竹内幹子  
 豊咲保夫  
 永松美智子  
 野村美智子  
 長谷川裕  
 村山豊夫  
 矢口横郎  
 矢島洋三  
 湯村汎  
 吉井宏  
 吉田章夫  
 若林久二  
 川原肇子  
 畑中寛治  
 中丸哲夫

**35年度生**  
 安達靖祐  
 伊藤広利  
 岡良治  
 奥二郎  
 門田光秋  
 木全本  
 木村戦太郎  
 久保田晴彦  
 小泉力雄  
 齋藤剛  
 関源司  
 高梨広孝  
 津上芳子  
 中川昭子  
 中谷昭子  
 堀江万里子  
 宮川清  
 山内達雄  
 渡辺隆  
 渡部秀昭

**34年度生**  
 飯田力也  
 石坂丈児  
 伊志良博  
 伊藤清忠  
 内野輝夫  
 大倉富美雄  
 大城昌夫  
 片山弘毅  
 鹿妻浩二  
 川路陽正  
 川村康一  
 河村暢夫  
 岸本義弘  
 波谷三朗  
 後藤照雄

**33年度生**  
 尾島正広  
 小井戸信雄  
 波谷三朗  
 長崎茂

宮村泰明  
 森万里  
 矢内原律美

**32年度生**  
 永野修二郎

**建築科**  
**36年度生**  
 青野達司  
 岩間正  
 遠藤晶  
 大久保英一  
 川口知彦  
 栗山福子  
 孤島宗一  
 席屋正  
 長瀬美奈子  
 道瀬徹雄  
 弦上紘三  
 山下泉  
 六角正広

**35年度生**  
 上利泰一郎  
 上野隆功  
 各川政勝  
 河合尹盛  
 木村浩  
 林和子  
 藤田皓一  
 細田成昭  
 松永文夫  
 益子義弘  
 山本昌明

**34年度生**  
 井島宏  
 泉義弘  
 板垣元彬  
 稲葉武司  
 岩崎駿介  
 加藤慎一  
 久保田晃  
 酒井建二  
 田中孝弥  
 土岐新  
 浪岡さくら  
 山田莊彦

山本厚生

**32年度生**  
 足立丈夫

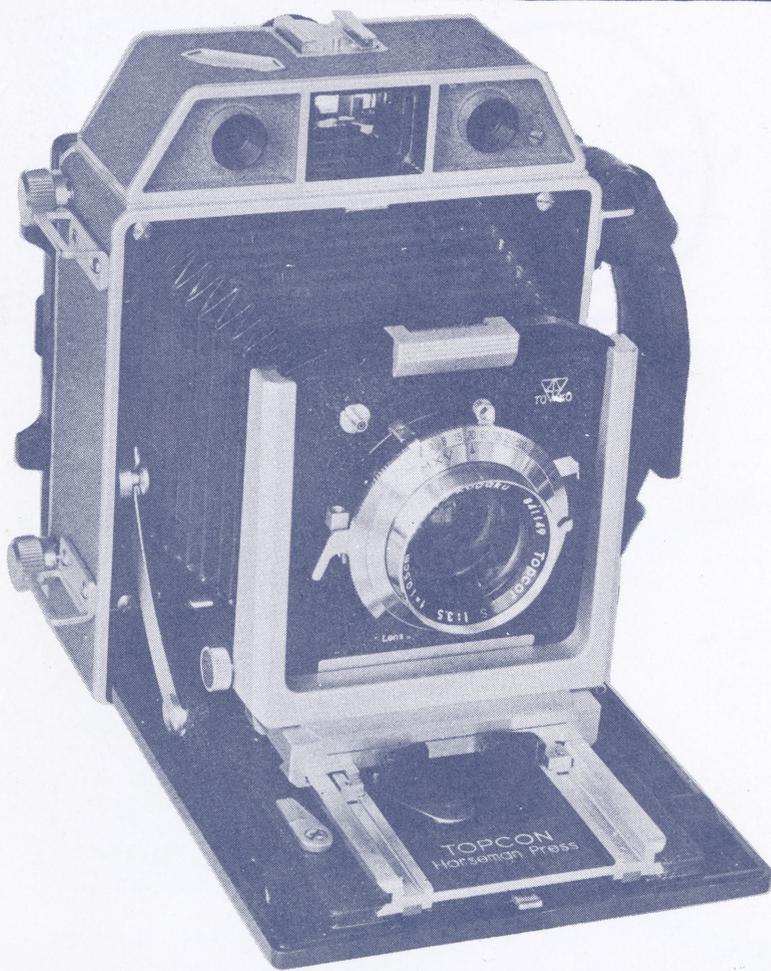
**芸術学科**  
**36年度生**  
 小口摩耶  
 門脇優美  
 小池十郎  
 越宏一  
 勝呂小枝  
 塚田義介  
 中沢富士子  
 中島哲  
 富田克人  
 吉田宏道

**35年度生**  
 荒木成子  
 飯島坦  
 石村速雄  
 板倉み江子  
 泉川迪央  
 鈴木忠雄  
 戸田恵美子  
 早野威男  
 古田行子  
 松本栄治  
 山崎隆之  
 新垣安之輔  
 知念登次

**34年度生**  
 石川雅庸  
 井出幸伸  
 浮田和夫  
 海老根聡郎  
 太田瑠璃子  
 熊田真幸  
 杉本公子  
 林良二

# 編集後記

夏休み、結局はみんな暇だからだろう、高いコーヒ一代を無理してジローなんぞに精勤し討論したのは。「今年はプログラム作らないことにしよう」とSEWAOの開会の辞に始まって、ボソはチャカホイを、グビちゃんはお弁当の写真キャンペーンを、朝岡詩人はトイレの図を、それぞれプログラムに掲載する事を断固として主張、一等才は「酋長！腹へったあ」をくりかえし、パイプの前沢氏は沈黙を守りくしかし後には驚くべき弁舌で広告を取材したが、気のやさしい編集長の自尊心を傷つけながらもどうやら、常に企画部をリードし積極的なテーマを打ち出したのはプロ委員のジロー会談の成果だろうと、自負する次第である。荒れ狂う18号台風下へ修学旅行としゃれたボソとグビの遺言、チャカホイとお弁当は実現しなかったが、これ又値上ムードの犠牲とあきらめられたし。



あらゆる条件の撮影にマッチする  
 トップコンホースマンプレス



**TOPCON**  
**HORSEMAN PRESS**

東京光学機械株式会社  
 東京都板橋区蓮沼町75番地

44学内  
 55製  
 (1961)

# 音楽学部

**●作曲科**  
**36年度生**  
 青山勇  
 石田利竹  
 内田勝人  
 奥村美和子  
 金田成就  
 木村雅信  
 菊地雅洋  
 鈴木登  
 瀬下健二  
 竹田由彦  
 竹悦子  
 朴賢治  
 松本紀久雄  
 松本恭子  
 森木秀  
 森本多賀子  
 山下豊子  
 吉田ハルナ  
**35年度生**  
 浅野義弘  
 井上雅道  
 岡坂慶紀  
 大月玄之  
 大森干穂  
 甲斐説宗  
 眼龍義治  
 栗原浩一郎  
 小林研一郎  
 志田笙子  
 田代雅士  
 田中均  
 田中瑤知子  
 野沢道子  
 野田暉行  
 林芳輝  
 伴博  
 福井道子  
 福田知子  
 牧野謙  
 村瀬建太郎  
 森川隆之  
 森田禎子  
 安田照子  
 吉崎清富  
**34年度生**  
 石崎きよ  
 岩間稔  
 江川真澄  
 岡本秩典  
 北村昭  
 三枝政代  
 鈴木英明

宮本鏡子  
 茂手木節子  
 安田祥子  
 横井加枝  
 西原亜紀子  
 一橋律子  
 A 足立敦子  
 天羽京子  
 市丸蒼生  
 尾坂尚子  
 辛島節子  
 川瀬祥子  
 北村京子  
 坂本美紗子  
 清水陽子  
 武井三重子  
 東久子  
 渡部ヒロ子  
 橋静香  
 T 会沢義雄  
 在原勝三  
 安楽雄三  
 稲田浩  
 井上善策  
 岩淵嘉登  
 藤田雄三  
 藤原義久  
 松平朗  
 森井恵美子  
 山田光生  
 鷲野元子  
 渡辺宗明  
**32年度生**  
 飯田隆  
 菊本啓也  
 住友淳治  
 竹内邦光  
 浅野菁子  
**31年度生**  
 菊本啓也  
 田中宏行  
 山内正治

**●声乐科**  
**36年度生**  
 S 天羽繁子  
 池田典枝  
 大崎順子  
 大山陽子  
 楠原美智子  
 竹林澄代  
 中島千代  
 永味八重子  
 西村直子  
 浜田章子  
 林田紀美子  
 福井裕子  
 水野せつ子

平岡紀子  
 古堅静江  
 松本康子  
 三ツ木久美子  
 小野純子  
 大友由美子  
 小林なほみ  
 木尾信子  
 A 相川貴久子  
 内山美登理  
 小田恵己子  
 高島和枝  
 高嶋美枝子  
 中谷明子  
 福田紀代子  
 船木雅枝  
 宮崎美智子  
 金森静子  
 佐藤照子  
 坪内詢子  
 T 秋山衛  
 河瀬清志  
 黄耀明  
 宮原祥一郎  
 宮下正  
 山岸靖  
 湯川晃平  
 石川昌敬  
 岸三樹夫  
 鈴木理文  
**32年度生**  
 S 清水千種  
 T 若井俊司  
 西野隆三  
**31年度生**  
 B 塚本功  
 新保堯司

**●器楽科**  
**36年度生**  
 P 綾部美智子  
 荒井紀子  
 石川万里子  
 稲田淳子  
 江部公子  
 小田浩美  
 河合登志子  
 木村薫  
 古城祥子  
 佐藤公子  
 志津野尚子  
 杉谷昭子  
 関藤玲子  
 田中敦子  
 高柳美也子  
 徳内悠子  
 中村裕子  
 西勇夫

西沢寿子  
 藤巻総子  
 堀江真記  
 松本多恵子  
 松谷翠  
 宮城立  
 宮田清  
 山内哲  
 小松春子  
 水越慧子  
 Org 河野和雄  
 本田洋子  
 VI 井口孝子  
 井上将興  
 小川隆子  
 大内様美  
 岡山潔  
 落合みどり  
 小泉博司  
 佐藤美代子  
 鈴木良子  
 鈴木貴志子  
 田野はるみ  
 高崎若子  
 玉木宏樹  
 辻輝子  
 中西晶子  
 中村英昭  
 長井明  
 藤部芳子  
 林明美  
 前河内孝江  
 渡辺香  
 Vla 五十嵐勝美  
 林勝彦  
 山口正子  
 山口美智代  
 C 多久俊  
 田村宏  
 長沢正孝  
 平戸陽一  
 松波多美子  
 山本昌代  
 KB 牧野誠一郎  
 Hap 原野万里子  
 吉岡柯葉  
 FI 蝦名瑛美  
 小林茂  
 杉本洋子  
 Ob

坂宏之  
 山本洋一  
 CI 国頭永浩  
 佐倉好高  
 清水祥子  
 有本功  
 Fg 津田雄三  
 山本忠  
 Sax 清水義文  
 TP 高田俊治  
 長谷川芳彦  
 張田望  
 山本武雄  
 H 今井清治  
 松原千代繁  
 宮田四郎  
 Tb 磯村寿彦  
 萩原隆男  
 三村範基  
 Bar 箕輪日出男  
 Tu 高橋文隆  
 打瀬戸川正  
 針生惇  
 百瀬和紀  
 樋口昭  
 宮沢幸子  
**35年度生**  
 P 安西八千代  
 小川勉  
 音川絃一  
 川合恵子  
 記内良子  
 木原啓子  
 黒沼幸子  
 真田光子  
 田原嘉子  
 檀上文子  
 西村万里子  
 野口明子  
 野崎聡子  
 原佳子  
 平尾はるな  
 福井洋子  
 藤岡えみ  
 卷淵文子  
 村谷百合子  
 吉岡千賀子  
 脇本優子

油谷和歌子  
 川俣笑子  
 都筑美智子  
 Org 末松昌子  
 太宰径子  
 VI 安部浩子  
 阿部靖  
 井出紀子  
 井上洋子  
 ノ瀬康夫  
 稲留尚子  
 上田寿子  
 小川敬子  
 岡島絃子  
 熊倉道子  
 近藤富美子  
 塩山礼子  
 島貫秀昭  
 鷺見弘子  
 高木豊美  
 南野美恵子  
 深谷満華子  
 福崎寿子  
 別府美佐子  
 水野稔雄  
 森瑠美子  
 山根直子  
 渡辺恭孝  
 奥晶江  
 筑濤子  
 鴨川美紀子  
 後藤悠子  
 佐藤紀美子  
 柴田澄子  
 鈴木婦美子  
 出口伸子  
 平福美穂  
 本坊雅子  
 山野妙子  
 山田さえ子  
 山根裕子  
 山本春海  
 湯浅円  
 米田登美子  
 渡辺英美  
 田上絃子  
 村武佳子  
 Org 久保田清二  
 広野嗣雄  
 VI 伊藤雅代  
 太田菊子  
 桑折佐紀子  
 小林菜子  
 神前百代

江森璋  
 小島庸子  
 鈴木尚雄  
 土屋一郎  
 CI 長松正明  
 古屋郁子  
 Fg 高橋勝夫  
 Sax 長島弘毅  
 TP 関庚朗  
 日野圭一  
 H 市川典子  
 市上晴彦  
 Tb 浦田健次郎  
 中村清紀  
 野武重志  
 打 船津祥子  
 山口保宜  
**34年度生**  
 安部牧子  
 井上紀子  
 遠藤紀久子  
 遠藤紀久子  
 大屋真知子  
 奥晶江  
 筑濤子  
 鴨川美紀子  
 後藤悠子  
 佐藤紀美子  
 柴田澄子  
 鈴木婦美子  
 出口伸子  
 平福美穂  
 本坊雅子  
 山野妙子  
 山田さえ子  
 山根裕子  
 山本春海  
 湯浅円  
 米田登美子  
 渡辺英美  
 田上絃子  
 村武佳子  
 Org 久保田清二  
 広野嗣雄  
 VI 伊藤雅代  
 太田菊子  
 桑折佐紀子  
 小林菜子  
 神前百代

酒井紀子  
 坂倉邦子  
 平紀代子  
 塚田勝也  
 中川敏子  
 中野秀男  
 原田教子  
 前沢均  
 山岸登代子  
 湯浅史子  
 石橋義也  
 原田美奈子  
 米倉ひろ子  
 Vla 白神定典  
 田中恭子  
 C 木村聡子  
 館野英司  
 平戸邦子  
 渡辺誠二郎  
 KB 上田誠  
 小貫幸子  
 鈴木良範  
 Hap 永廻万里  
 萩原裕子  
 FI 橋本量至  
 平尾まゆみ  
 益山弘熙  
 湯川和雄  
 Ob 蝦名麗美  
 CI 栗原浩  
 土井清子  
 永田健一  
 村井祐児  
 Fg 霧生吉秀  
 山本武司  
 山本直親  
 Sax 大室勇一  
 鏡木融  
 佐藤せつ子  
 塚本絃一郎  
 TP 来馬賢  
 日置二郎  
 吉村義史  
 H 小野晏敬  
 保科三智雄  
 Tb 梶原征剛

下平千儀  
 山元富雄  
 Bar 中島由紀子  
 打 新井汎  
 白石元一郎  
 杉山園子  
**33年度生**  
 P 安土康子  
 朝山倫子  
 荒憲一  
 伊藤妙子  
 石垣文子  
 石原愛子  
 稲村久仁子  
 尾上伸子  
 折井緑  
 小室糸子  
 佐藤肇子  
 須貝久子  
 仙石浩之  
 高久田文子  
 高谷順子  
 林ますみ  
 平井孝知  
 本家恒雄  
 山本凱子  
 栗谷宏子  
 伊藤瑠美子  
 小池ふさ  
 小林恭子  
 美馬千鶴子  
 宮川道子  
 Org 岡井晃  
 河野昌弘  
 VI 小川薫  
 加藤陽子  
 栗原葉子  
 齊藤弥栄子  
 能見和絵  
 林田紀子  
 原協子  
 藤沢一彦  
 松本美奈子  
 水谷久子  
 大谷紀栄  
 河合広子  
 Vla 藤貞夫  
 兎束俊之  
 C 内田勝彦  
 小川晶久  
 矢島富雄

**KB** 毛利恭三  
**FI** 讃井若菜  
 角田永子  
 手塚幸紀  
 野田裕子  
 吉井幽香  
**Ob** 飯田陽子  
 三池延和  
**CI** 浅野常彦  
 土ささなえ  
 橋本公佑  
 平井誠一郎  
 細野孝興  
**Sax** 齊藤瑛子  
 水野恵子  
**TP** 岡部正二  
 小泉克之  
 佐々木節夫  
 権弘  
 園木元徳  
**H** 三好隆三  
 余野文昭  
**Tb** 浅田徳雄  
 福井久子  
**Bar** 石崎一夫  
 打 雨宮靖和  
 高橋美智子  
**32年度生**  
 P 霧生トシ  
 矢野義明  
**Org** 野村道子  
 VI 落合孝男  
 堤克子  
**C** 荒井俊幸  
**TP** 山口進一郎  
 山本康尤  
**Tb** 飯吉靖彦  
 伊藤清

**●邦楽科**  
**36年度生**  
 井上朋子  
 細田瑞枝  
 三塚睦子  
 片野とも子  
 越野美智子  
 中島雄司  
 嚙 向山英一郎  
**生** 石井久美子  
 北沢依子  
 小林陽子  
 佐藤俊子  
 砂崎知子  
 山 大高テル子  
 各和ミホ子  
 佐藤洋子  
 観 三輪修太郎  
 宝 内田芳子  
 高尾裕子  
 徳川和子  
**35年度生**  
**唄** 岡村佳子  
 三 井上勝子  
 小林良子  
 小輪瀬晋  
 唯 長谷川洋子  
**生** 栗山祐子  
 佐藤昭子  
 田原優子  
 高野弓子  
 三沢玲子  
 脇節子  
 山

立田和美  
 小島美子  
 服部長子  
 服部美芳  
 松村頼子  
 水村浩一  
 森田稔  
 八東美智子  
 山野誠之  
 渡辺愛子  
**32年度生**  
 小杉武久

池田陽子  
 豊田正子  
 三室陽子  
 宮下伸  
 野村謙  
**34年度生**  
 唄 岡島梅子  
 伊東久枝  
 三 大木祥江  
 高橋武雄  
 寺尾絃子  
 道家エリ子  
 中野薫  
 吉田成一  
**生** 安藤郁代  
 打田宏子  
 白石友紀子  
 竹本一恵  
 羽場百合子  
 山 小笠原節子  
 大島マリエ  
 酒井瑛子  
 観 増井俊二  
 宝 寺井良雄  
**33年度生**  
**唄** 住友友代子  
 三 中橋ヒナ  
 唄 前川譽公  
 宮武総子  
 三 荒木倭子  
 鈴木吉康  
**生** 伊藤敦子  
 池田道子  
 羽賀幹子  
 吉川富子  
 渡辺孝子  
 山 塩原千恵子  
 観 小川明宏  
 宮永育子  
 宝 宮下英子  
**32年度生**  
**生** 海保照



森永製菓株式会社



200円・500円

■カップルでインスタント！タッタ5秒！ハイブレンド！おもて味・うら味！アロマ珈琲通も珈琲魔も！朝はコク★夜はウスクどうぞ！18-20杯分！経済的！

# 東京芸術大学

## 美術学部新館

漆芸展 漆芸科34年  
デザイン展 工芸科12年  
図案計画科34年  
写真展 工芸科2年  
建築展 建築科23年  
ひろば展 建築科1年

## 木工室

金工展 金工科34年

## 美術学部本館

写真展 自治会  
舞台美術展 舞台美術研究会  
陶磁器展 陶磁器研究会  
フレスコ展 フレスコ研究室  
版画展 版画研究会  
芸術学科展 芸術学科2年  
油画展 油画科1234年  
日本画展 日本画科1234年

## 第7講義室

講演会 討論会 映画会

## 木彫室その他

アンデパンダン展 油画科2年  
彫刻展 彫刻科1234年



377.9  
G  
8  
野外彫刻展 彫刻科

おしるこ  
喫茶 ローラローラ ステージ

やきとり

おでん みかげ  
BAR KURI  
食堂

茶房 龍安寺

WC

うえの

WC

うぐいすだに

につぼり

シャンソンホール  
オルフェ



第58室  
講演会  
喫茶 ビボ

## 奏楽堂

演奏会  
作品発表会  
公開討論会

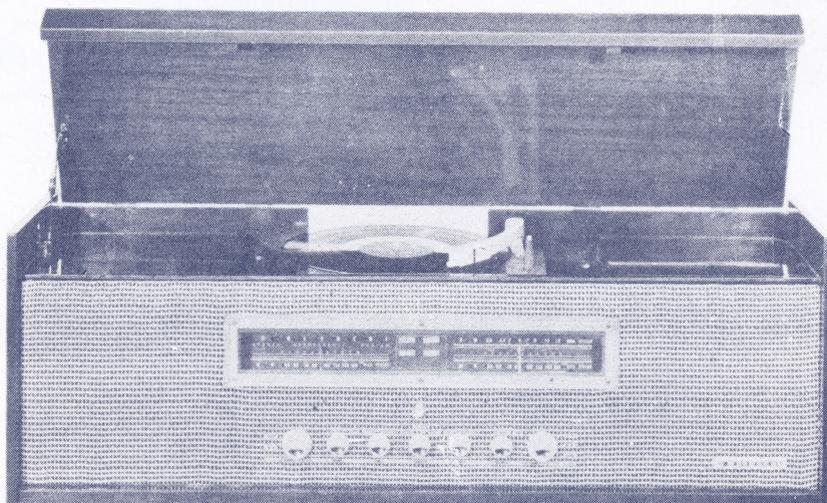
喫茶 ロン  
喫茶 マントバーニ  
おにぎり  
食堂

TAKI

# 豪華な音の迫力!



DPS-849R シリーズ  
現金正価 38,000円  
月賦正価 40,500円



〈技術の日立〉が生んだ



## 日立ステレオ 日立

奏楽堂  
整理券  
番号

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9

■ 音楽の美しさと格調のために

# ヤマハピアノ

日本楽器製造株式会社  
東京支店 銀座7丁目1 TEL(571)9151



4F学内  
奏楽  
1961